伊勢參宮

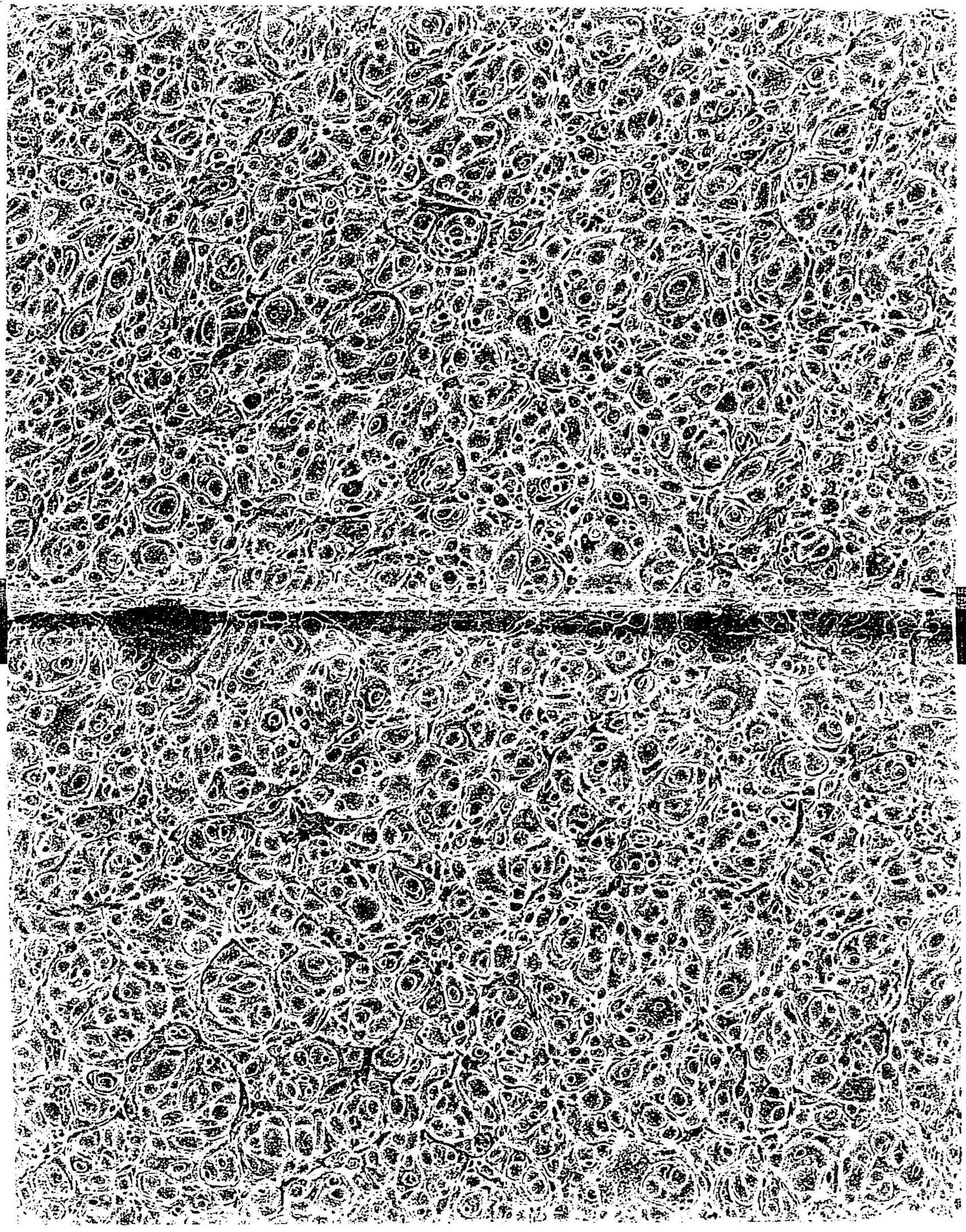
名所圖會

一名

東海道鉄道名所案内

1
1
36

萬山堂出版



特63
521

東海道名所圖會

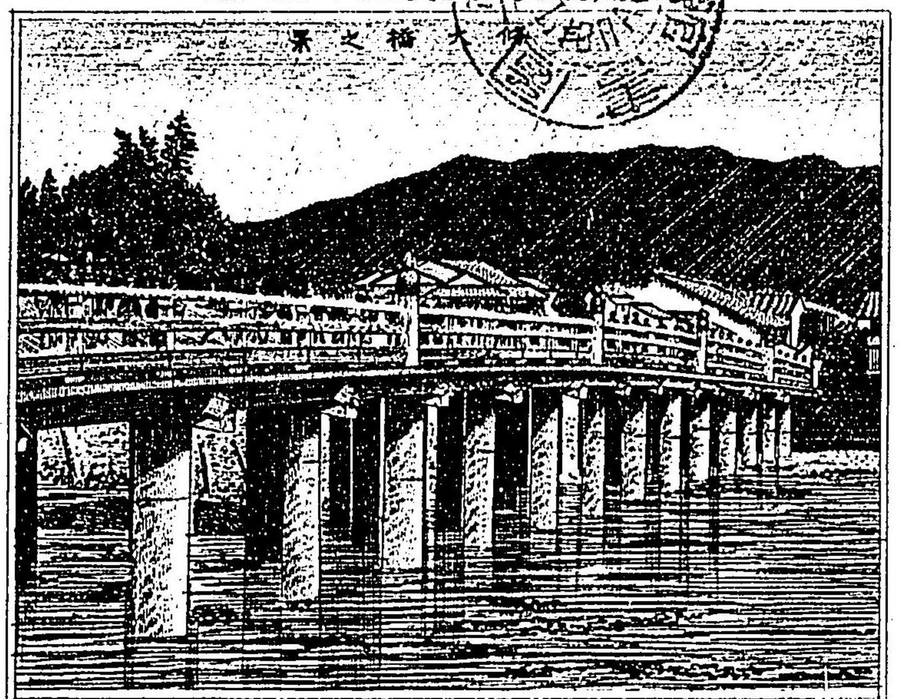
伊勢宮崎
正西 雅號菊仙

東京
大阪
萬屋
吉右衛門
金鍵堂
須磨谷
所藏
德壽
堂內

版權所有

THE GREAT BRIDGE OF SANJŌ, KYOTO.

三條大橋之景



伊勢参宮名所圖繪

一名東海道鉄道名所案内

内外詣之記

文明開化の大御世ゑ、光り長閑き日本や伊勢ゑ太敷大廟や、数歳遷暦の再営ゑ紳商農工の別なく、群参、頃しも寅の春錦織成す離宮の地、流も清き加茂川ゑ京都三條大橋（大津ゑ三里二十六町）此地の名所方角は日本名所圖繪一の巻、詳記すれば省たり先路を白川ゑ取り、三條橋ゑ南を眺めば祇園橋や五條の橋蒲團着て寐る姿の東山清水寺や八阪塔高臺寺山ゑ招魂場霊山圓山の楼臺は、深樹の間ゑ隠見し

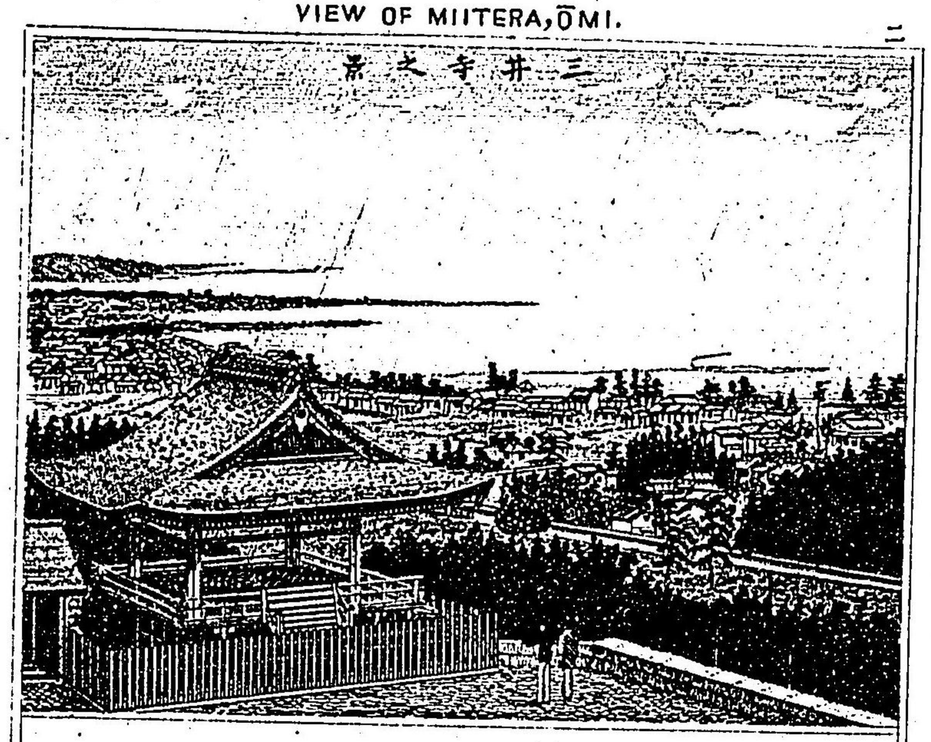
伊勢名所

東京帝国大学図書館 TOKYO

内閣文庫 昭和編纂之印

VIEW OF MIITERA, ŌMI.

三井寺之景



東ゑ向えば畑管塵旅舎酒楼も数多く粟田口ゑも近附ば、青蓮院や植髪堂蹴上遥りは製陶廠世ゑ粟田焼と稱用し往還雑沓の松阪や、日岡峠を登る牛車漸次降れば奴茶屋、山科ゑ旧き六地藏爰は名ゑあふ追分や、四宮河原蟬丸の社名も走井の餡餅ゑ、園裡の庭造試みて曇らぬ御代ゑ関の宮、山越近き滋賀縣の大津駅ゑ着ゑけり、

偖て鐵道は京七條ゑ流笛一声ゑ発仮し東ゑ向ひ鴨川を越、伏見街道の西裏を南走すれば稲荷駅列車寶塔寺山越ゑ進ゑ登れば山科郷本願寺や義士の隠里

VIEW OF TAKA-KWANON.

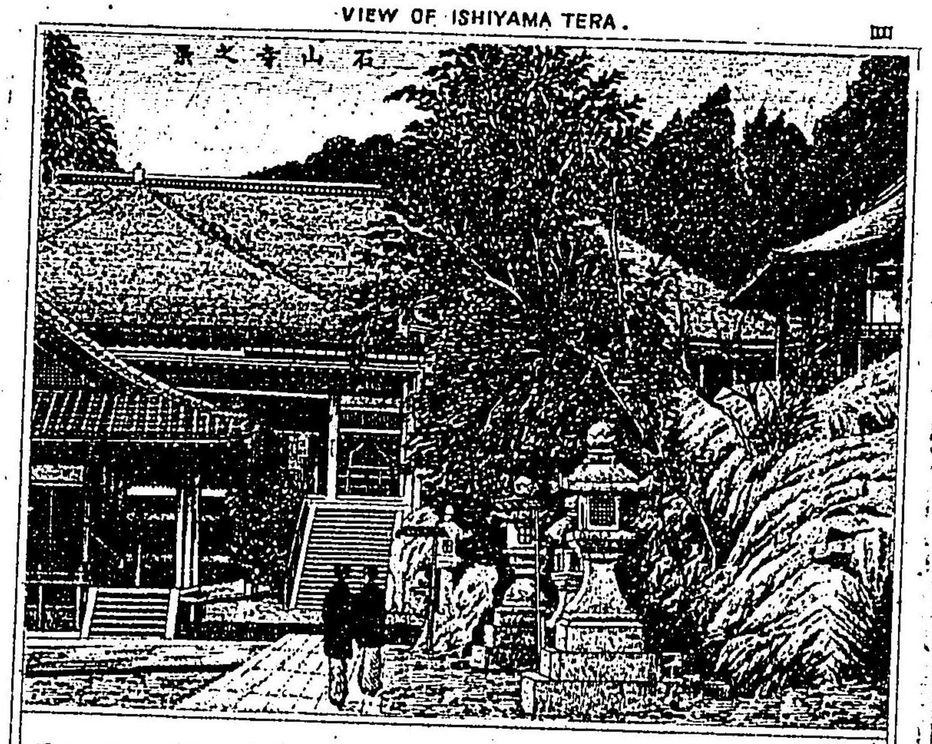
高觀音之景

琵琶湖疏水堤防は、逢阪の山腰蜿蜒し大谷駅は関趾の渓隧道ゑ向へば白晝ゑ洋燈笠車を照つ、東口ゑ馳出れば湖の湖水を一眸ゑ三井の古寺近松山高観音も樹間ゑ顕れ、打出の濱を眺つ、馬場は大津停車場粟津清嵐見嵐て勢田の長橋夷々と、石山寺を南ゑ視て玉川里や矢走歸帆湖上遥かゑ眺望し大神川の隧道も過き、草津停車ゑ着すれば関西鉄道ゑ乗換て、東ゑ向へば三上山車窓近く眺つ、石部駅の西端ゑ停車場の設あり、尚も進めば三雲駅是より東は布設中、伊賀の柘植迄は既ゑ開業せり此處ゑ達すれば関駅まで四里ゑして人力車を通ずべし

草津驛之景

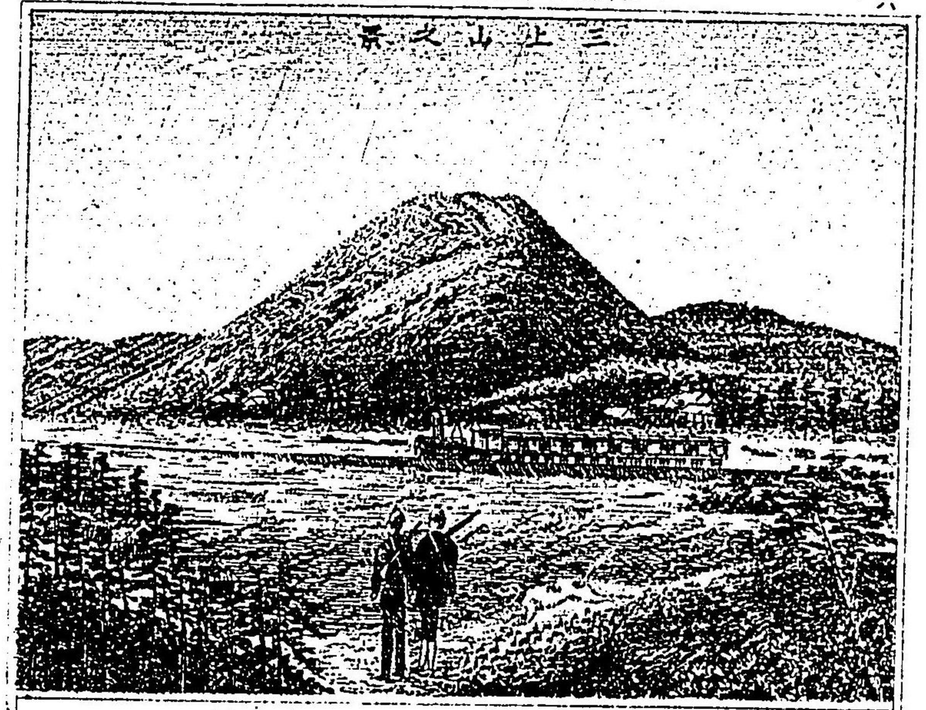
観音閣は順禮札所、破傷の鐘は名高し
さて波や三井の古寺鐘はあれ是を喜多川定因
尤折して登る側又　西南戰死の紀念碑
壁崖上又聳立して、境地湖上の眺よし
昔日　天朝御幸あり、
高観音は近松寺、園城寺の後山又して
三井寺より二町計り、山後又平坦の地あり
此地櫻楓最と多く、堂宇の傍又旧知事
松田氏の墓碑あり、頃しも櫻花爛熳と
花下處々又開宴し、酒酣又踏舞するあり
又坂路を挙登れば、観音堂の傍側又
茶舗夥多連比して、詞客遊蕩花を賞し
余輩も茲又休憩し彌望せば其光景の

石山寺之景



三雲駅は石部水口の、中間又て田川と云ふ
横田川の沿岸なり、旅舎は鑪屋石部屋
両家門又客を呼ぶ、駅端又車道を堅き
伊賀の柘植を経て、伊勢の関又連絡す
新街道なれど道悪し、
近江大津市　草津より至る三里二十七町　水路は山田又至一里
滋賀縣廳は別所村、然ども大津の町續き
市坊は東西廿五町、南北十二町其入口は
一万九千八百零餘、商貴鱗次攝庇して
貨物輻輳繁花の地、鯇魚や鮒鮓の産物
湖岸又泊船を繫たり、
三井寺は園城寺と云麓又長等神社あり
是より石階重畳し、右折して挙登れば

三上山之景



艶麗なる彼瑞西の、日内瓦湖の美景も此處又三舎を避べし、滿山櫻花白雲の如く樹間又遠望極れば、大津の市街湖を扣へ山田矢走の渡場又、汽船往来し三上山や鏡山翠峯聳立し、沖を眺むれば恰も藍を延たる湖上又、白帆順風又泛つ、汽船煤煙を噴て去針路を長濱彦根又向ひ走る鮮潔あり、北部遥又眺むれば比良や比叡の山峰、麓は廣漠都郁と菜花黄金敷く如く、夥多の洲嵜突出し湖中又島嶼散見し、仙境又遊ぶ想あり

琵琶湖上浮画船春光花影照波妍一帯香雲横翠壁只宜隔水對菜田

郁文哉

鈴鹿神社之景

大津より松本の間、此を打出濱と謂ふ此處又一樹の松あり、辛崎の松又能似り馬場村又義仲の碑、錦村を経て膳所市爰又有名の京亭を、坂本屋と云是より粟津又兼平墳あり、

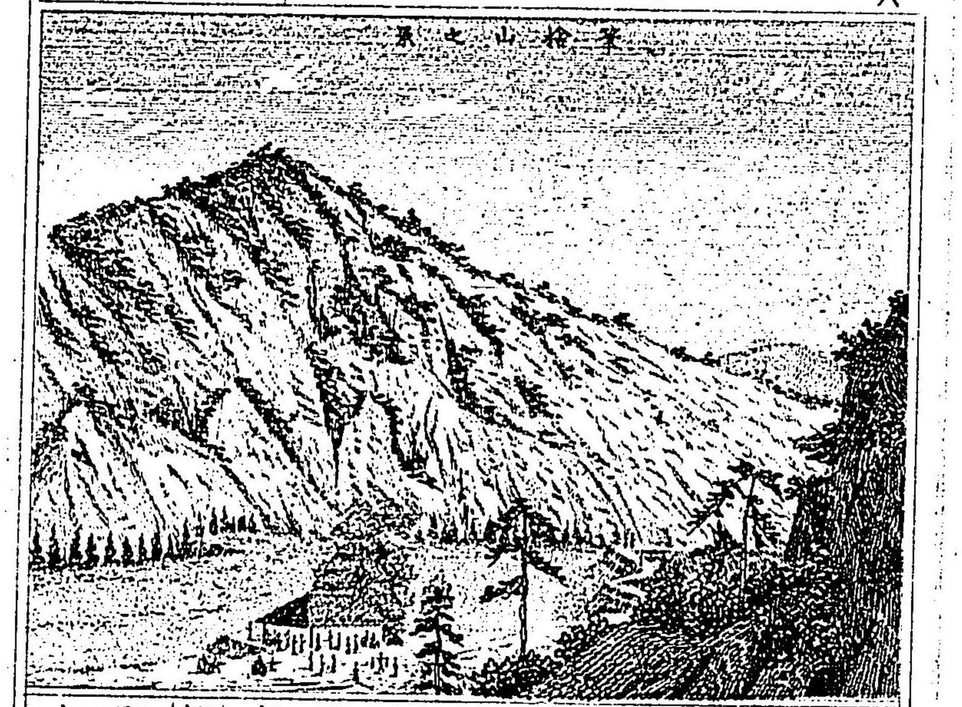
武士の昔の跡を名のみそ樹の松よ風のこたへる 香樹

石山寺は湖又沿ひて、楼門又入ば坊舎並び石燈又際し奇巖あり、形状縱横雲の如く或は峙ち噴水の如く、或は鳥獣の貌して蘚苔滑又幽雅なり、

ちなんぶの姿のあやきに紅葉の俤とそ 香樹

数燈を踰て大悲閣間聞く山鳥と梵磬樓上又登て眺むれば、萬岳空翠渺として

筆捨山之景

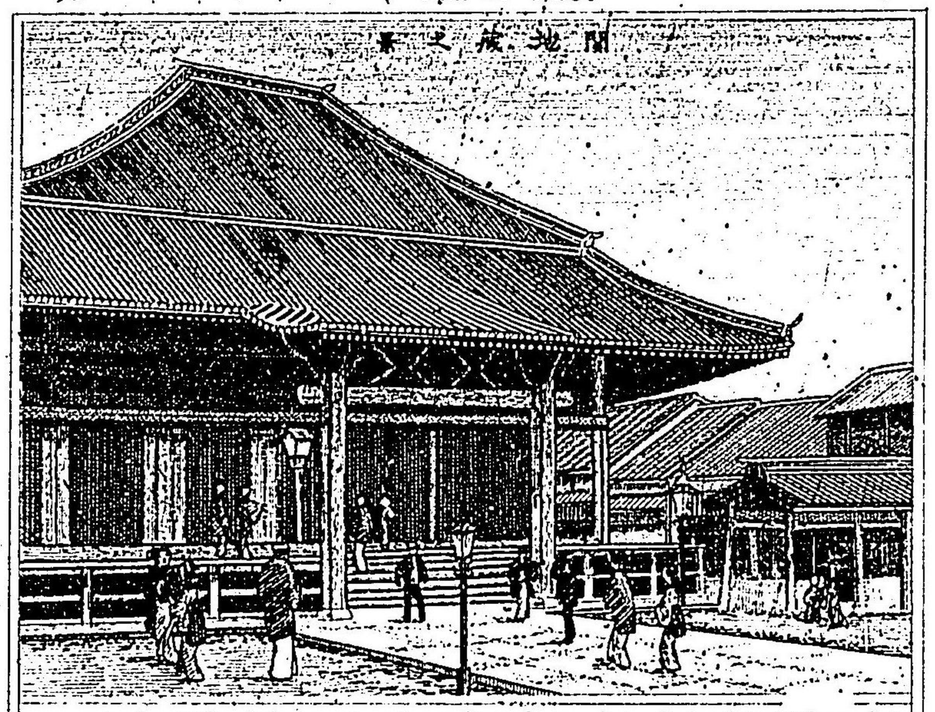


大湖の岸ゑ時ちて、一境静寂老樹茂り一径右折挙登れば、頂上ゑ望月臺あり茲ゑ一睹千里を極め、斜陽風帆ゑ映對し査霭の間ゑ出没し、徘徊顧面去能はず清曠の遊を為たり、

柔萬才学丈夫優千古風流筆底収相見高臺
沈思夜、一輪明月石山秋　千塚南東

鳥居川より右折して、勢田は宇治の川口滋賀栗水を境界し、茲ゑ百三十余間の断橋を架し近世又流車線路を復架す橋上ゑ湖面を瞰ば、比良比叡は西岸ゑ堅田辛崎査霭と、浄舟煙を噴て去り白帆風を含で来る、風景頗る奇絶なり

関地蔵之景



建部神社は神領村大巳貴尊を祀る野路の玉川流絶へ、秋萩さへも今は視ず

近草津駅　石部ゑ至る二里廿六町　山田を距る廿七町

商家旅舎軒を並へ、人口は二千九百余

姥ケ餅は古来名高し、東海東山の標石あり

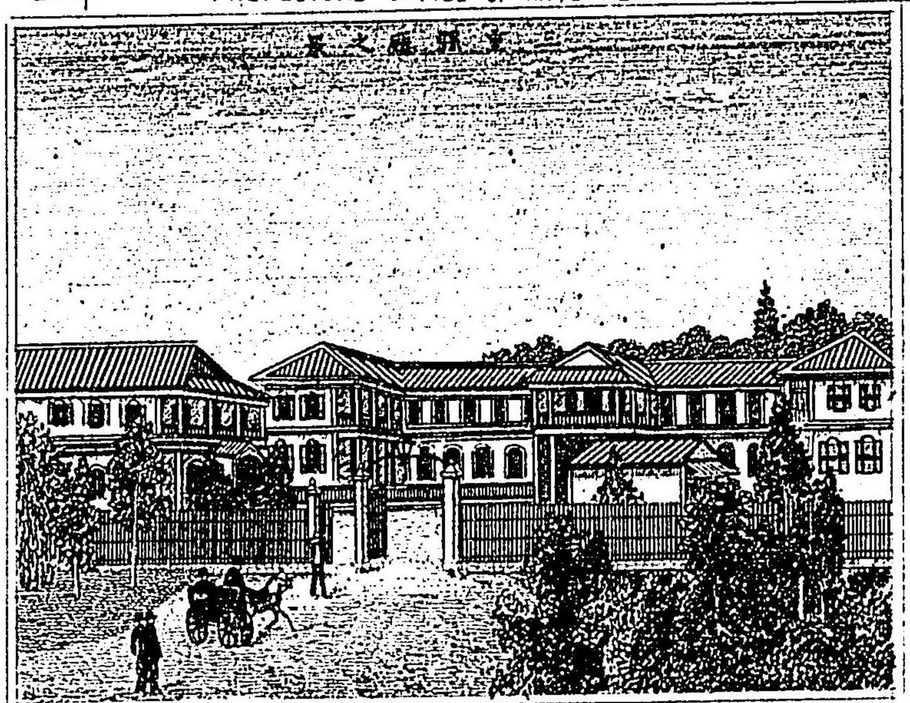
東海道ゑ杖を曳き、目川ゑ菜飯の名物

袋村を過て河辺村、上釣手原、六地蔵の諸村を経へて伊勢落村三上山近く眺めつゝ

近江　石部駅　水口ゑ至る三里九町

落合川より諸村経て、由良谷の橋を渡り夏見を過て吉永村荒川越れば三雲村藤房郷の古墳あり、田川ゑ三雲停車場

世のうさ忘よそよ三雲つく九郎人る月れ山の姿宝匡



日紀さへてげる大木あり下を流るゝ水音さやさやと香稚蟹阪又飴を專賣し些少の峠を上下して猪の巣を過ぎ行ば（伊勢 近江）國堺榜示あり數歩ならず峠に至る、いせをの茶店あり数又腕車を駐めて、例の善哉餅を試たり

宮道西通江勢間煙嵐十里翠屏環翠屏中鉄秋難障紅樹霜間鈴鹿山　福井邁

是より下阪路急峻に多津加美阪と呼び八町間廿七曲を成す、除歩して下る半腰に鈴鹿神社の磴道あり、此傍に孝子萬吉の紀念碑標柱を建つ、昔日冷泉歌を賜ふ

村まのゆいぞ袖の花の香ゆるあれど哀れぞ多く

鈴鹿神社は天照大神荒魂瀬織姫を祭る

横田の仮橋を越へ、和泉北郷、林村を経て

尤又加藤の城墟あり、

式内水口神社祭神は大巳貴命を祀り

近江水口駅（土山より至る二里三十町）旅舎　萬屋傳兵衛

藤細工の物産あり、新城大野村より行ば

此辺りは茶圃多し、路頭又布引山あり

市場を過て前野村檜の林蔭暗して

大伴狭手彦の碑あり、

近江土山駅（坂の下より至る二里十九町）旅舎　大黒屋長兵衛

此地製茶又従事し、海外輸出最多し

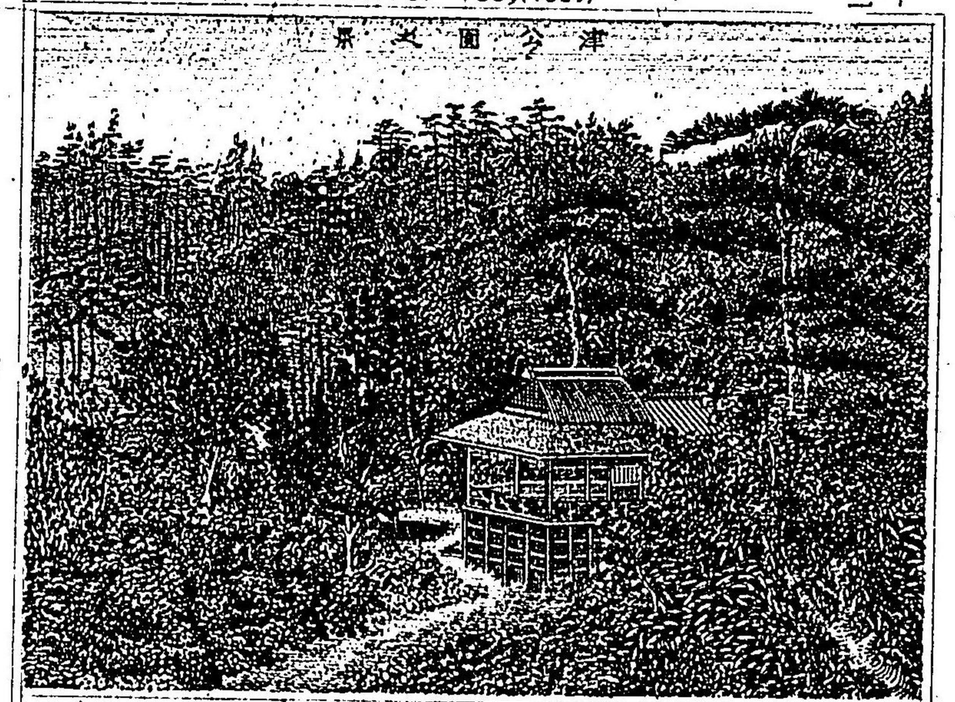
爰又多賀社岐道あり、駅中阿六梯を貶ぐ

東又老杉古栢森々と、田村神社を擁し左り

溪川又田村橋を架す、

PARK OF TSŪ,(ISE.)

津公園之景



社頭は老杉森々と、瑞垣を抱き神古て八十瀬茲ゴ発源し、是より数歩ならず玉琴橋の東ゴ進めば

伊勢坂下駅 関駅ゴ至る一里三十町 旅舎を大竹小竹と云

辯天橋は幽雅なり、是より阪路を進めば

筆捨山の美景あり、山前八十瀬川を帶び

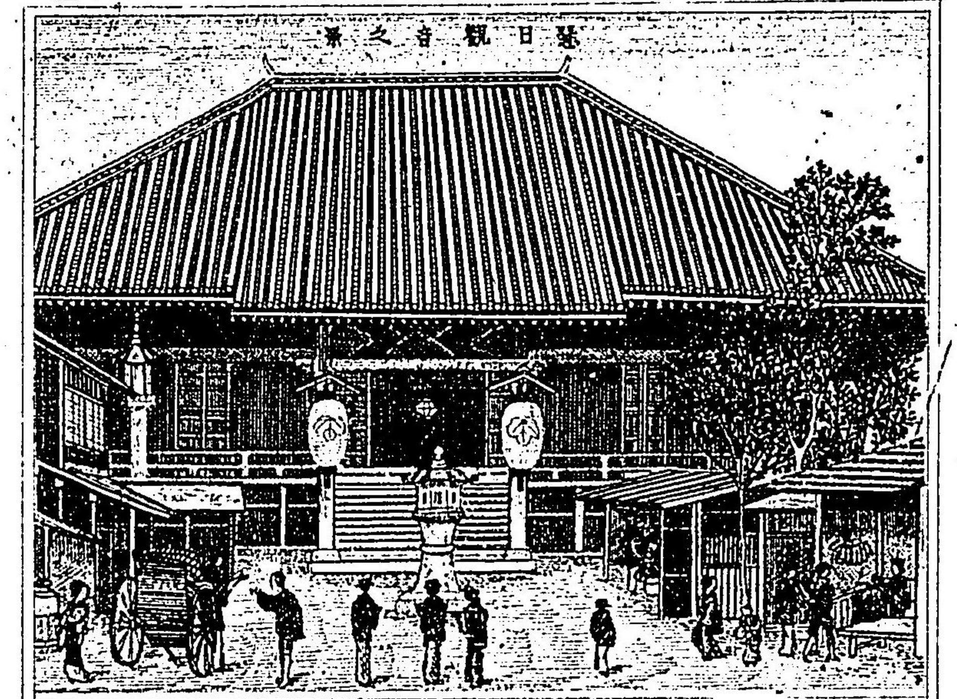
満山奇岩快石多く、松樹之が為ゴ屈曲し其貌ち蟠龍の如し、此山脉ゴ聯なりて蛭子大黒の奇岩又山背ゴ錫杖岳あり

今も杖ゴつきたるよ、なりる苍拾山の墓の傍ゴ香樹

伊勢関駅 楠原ゴ至る三十町 此駅は大和及び伊賀通路を茲ゴ兼帶し、商賈繁密連檐し小邑なれど繁昌なり、旅舎 大津屋、山石

VIEW OF KUWAN-ON-JI.

瑞日観音之景



つるや 玉屋 會津屋

地蔵堂 一休開眼の、奇談は人口ゴ膾炙せり

驛端は東海道及び伊勢参宮の追分ゴ遥拜の華表を建つ、是より東南ゴ向ひ

楠原 三十四丁 掠本 二里十八丁 窪田宿 津町ゴ至る一里二十四丁

豊久野銭掛松は、太神行宮の古蹟

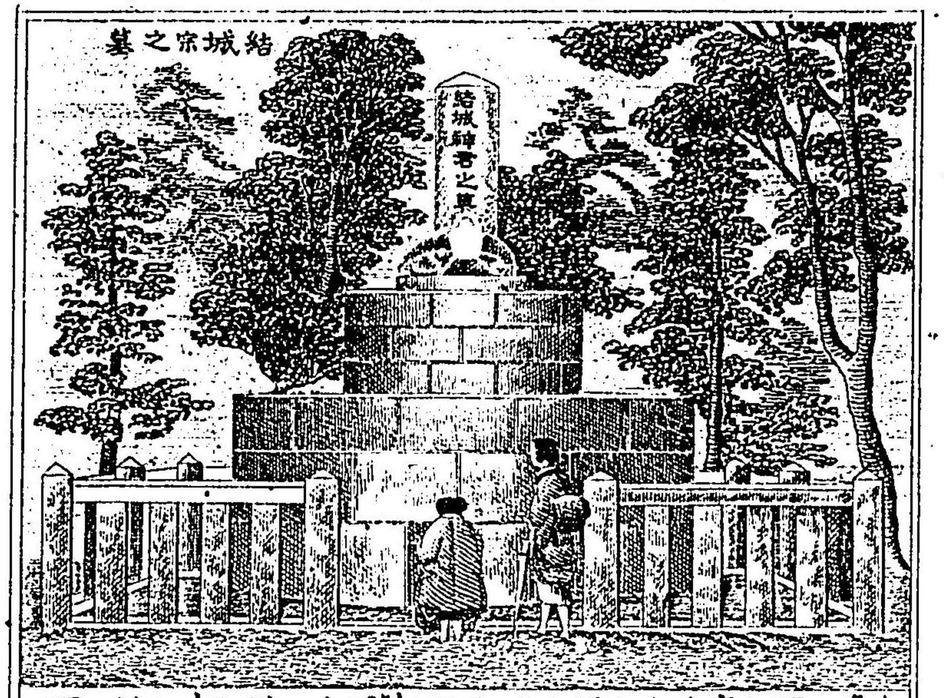
往昔旅人遥拜して賽銭を枝ゴ掛たりと

一身田の専修寺は、境内面積一万八千坪

嘉禄二年親鸞上人が下野芳賀郡大内庄柳島の地ゴ創立し、寛正六年十世の祖真恵今の地ゴ移す、菩提樹及び曲柳は大師堂の傍ゴあり、

観音寺は真言宗不断櫻の名高し

YUKI MUNEHIRO S TOMB.



象親亭や省耕臺等、假山の上ゑ建築し路次は蜿蜒半腸を、山頭ゑ躋れば縣廳の高郭眼前ゑ露れて、塔世川其南ゑ遶り全市を離て岩田川、流れの末ゑ贄崎の燈臺は海岸ゑ峙そ、尾州の諸嶺鬱々と山海眺望の勝地なり、

此地は旧藩堂氏が別荘たり廢藩の後、稍荒蕪ゑ屬せしが明治十年の頃かゑ、前の縣令岩村氏が、官ゑ請願し公園と成結城神社は八幡町、社殿宏壯美を極め土人尊崇最と厚く賽者常ゑ絶るなし結城上野介宗廣は元弘延元の世ゑ當り大義名分を明ゑして、鞠躬盡力勤王の志始終不貳の忠列を、御追感あらせられて明治十三年の六月ゑ官幣社ゑ列したり

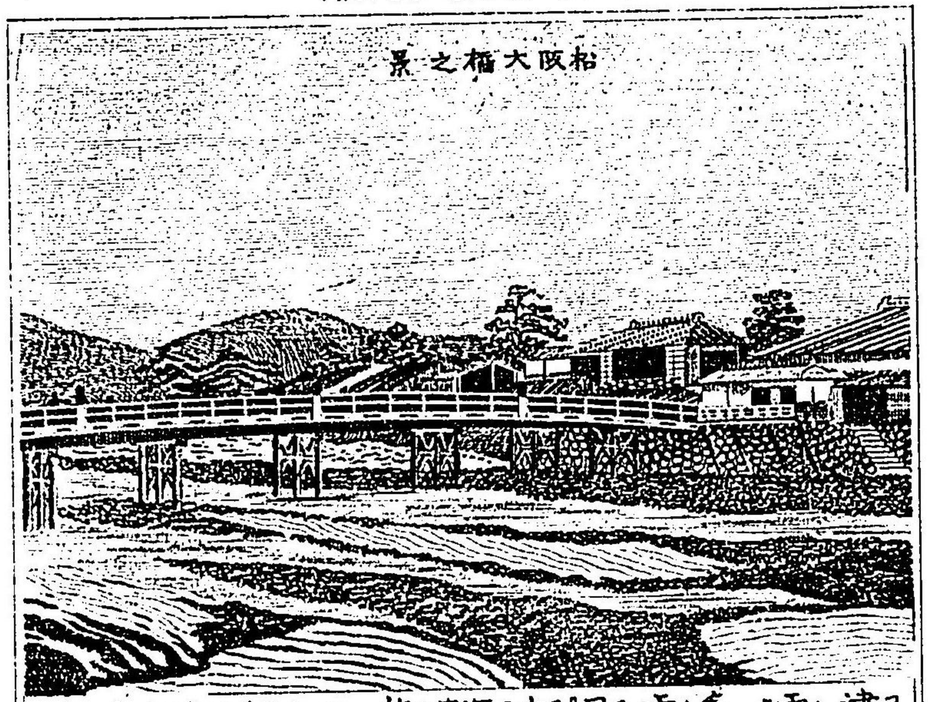
伊勢津市 雲津ゑ至る道程二里 旅舍は東町若六

津は阿濃津の省略本州の一都會ゑして市街の廣さ東西は、一里二町南北一里廿町其人口は二万二千余、巨商豪家連庇して三重縣廳中茶屋町諸邦の貨物輻輳し海陸運輸便利の地、就中大門町は殷賑ゑ人行雜沓繁花ゑて、路西ゑ旧城聳たり

茲ゑ慧日山觀音寺、如意輪の石像ゑして大同二年感得なりと云、

公園は下部田村の地、園裡は數株の櫻木雜樹及び躑躅を栽、中央ゑ澗水を湛へ高山神社は舊藩の、高虎公の靈を祭り西北ゑ博覧場及び、倶樂部を設けまた

松阪大橋之景



津の南端より青楼多く、是より南へ向へば

雲津駅　松阪より至る道程二里

旅舎　平野屋善五郎 HOTEL. HIRANOYA.　京屋善兵衛 HOTEL. KIOYA.　津屋伊三郎 HOTEL. TSUYA.

雲津川は大河にて、本州を南北に分たり

月本より大和の岐道、此を伊賀の阿保越と云

六軒は三渡村と呼び、大和街道の追分なり

伊賀の名張に出て、大和初瀬三輪奈良吉野高野に達す故賢人の往還殊に多し、

旅舎　湊屋忠兵衛 K.HOTEYA.　布袋屋半四郎 K.KOZUYA.　小津屋喜右衛門 G.YDOYA.　江戸屋五郎兵衛

久米村や塚本村舩井村を通過して

松阪市　明星駅より至る二里三十町

旅舎　大須賀屋喜兵衛 G.NAYA.　米屋甚右衛門 G.KOMEYA.　鯛屋儀八

富商豪農混淆の地、人口は八千七百余

貿易繁盛にして、市中に大搗を架し、河原に木綿を晒たり、此を渡り進めば三井氏の廈宅あり、其構造最も美なり

白粉町　角屋家旧く、古器珍観数品あり

日本光輝と題する書を視れば此品物を悉く縮寫し来歴を詳細に解示したり

有名の鈴屋は魚町家の嗣孫なる信郷氏が明治八年の頃かとよ、社殿を此に造営し宣長および篤胤の、靈を茲に合祀しが十三年勅使参向あり、金幣を下賜せられ祭祀料若干を賜び其挙を賛助し玉ふ

國学中興の祖神とす、肖像画賛の和歌に

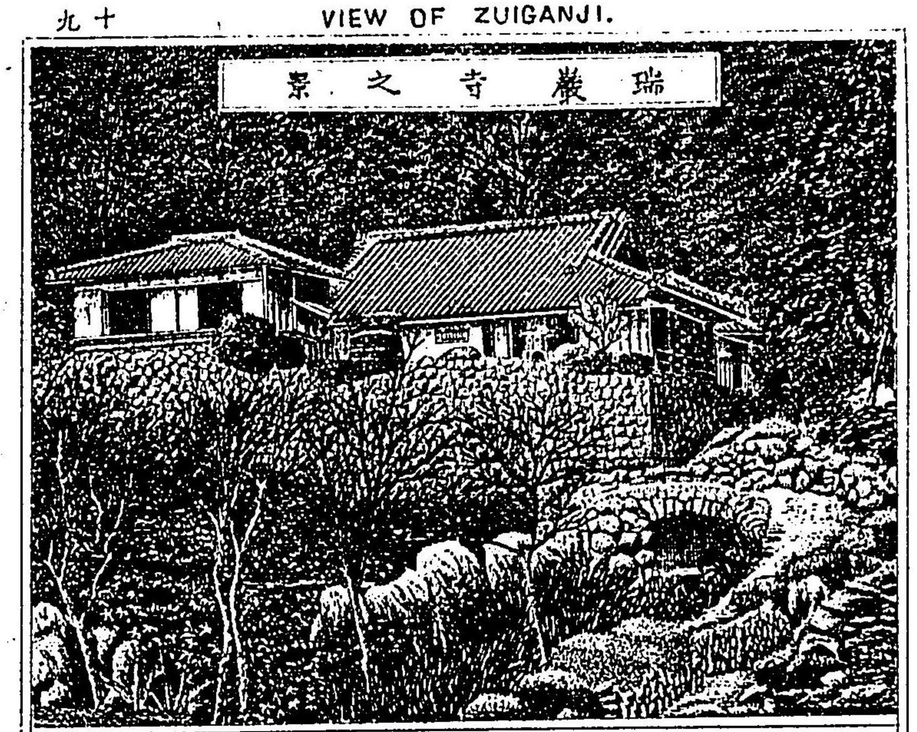
敷島の大和心を人とはば朝日に匂ふ山桜花

山室山は松坂の南沢部田村を通過して社地に至る一里余、妙楽寺より登山八町當寺に春秋手向として、賽者の詩歌を止たり社境は杉檜欝慈し、東南西に山を擁して北の一方開け眺よく、社の左に墓碑あり左に平田篤胤の墳、右に歌碑を建たり

くすしより養なき名も歎じよ我の住家なる求めて宣長

おなじ所は何ぞ土なぬよも魂名の名のえしらるる篤胤

松坂公園は城山と云市坊の西南に在り此辺を四五百森と謂、旧城面積三千余坪園中の南龍神社は紀伊徳川の祖を祭る明治十四年五月の頃官に願請し公園と成土地高燥に樹繁く、海望頗る絶佳にて

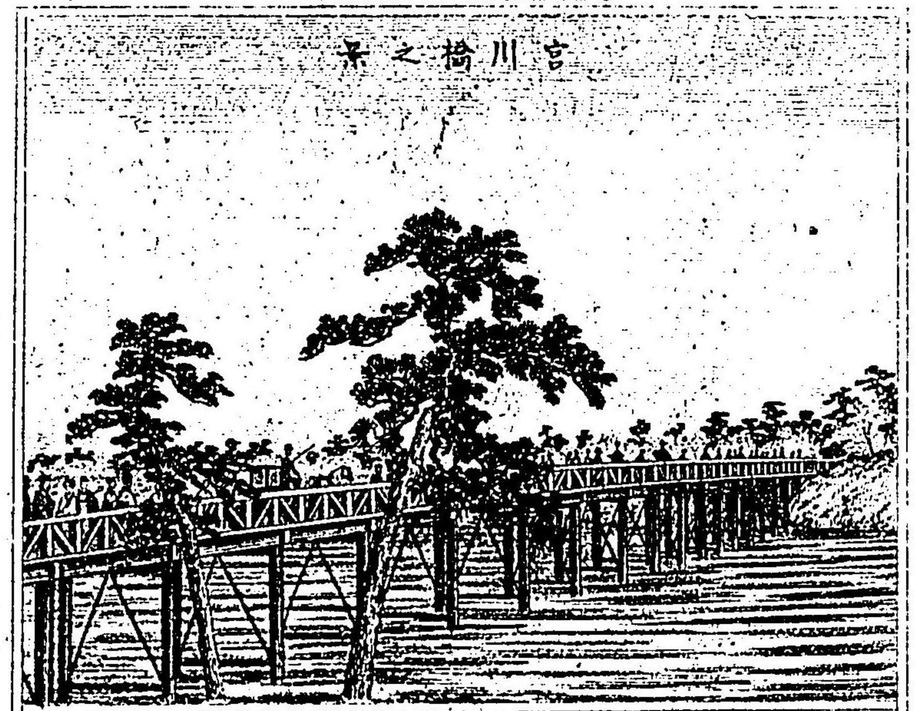


春秋遊観の人絶えず、

瑞巌寺は松坂を距る、西一里余、観音岩や七個石は岩内むら、昔僧空海遊行の際錫を此地に駐めて、渓間壁立の岩面に観音の像を彫刻し、山下に堂宇を設たり其後地震に崩壊して方今僅に面部を残す坊舎山に倚り池を繞し風光頗る幽雅なり文人松島に擬すと云、境地に小町石や鶏岩額岩及び鏡石等の、奇石共に著名なり観音川や辨天池の北岸に櫻木並植し土俗櫻縄手と呼ぶ此地山中到る處々は紅楓遊賞の地多し、

春もさん櫻楓なくて紅葉ばかりなる秋の山寺　佐々木弘綱

宮川橋之景



小俣 柏屋 佐兵衛、HOTEL T.KASHIWA 川端屋藤兵衛

旅舍 木屋 長兵衛、KINOHO 野呂 久兵衛

宮川又 度會川と云、水州最大の河なり

水源は 大蓮原より発し、濁川大内藤川を容れ

川幅百二十間あり、諸方道程左に記す

外宮より至る十八町、内宮より至る一里半、二見浦へ二里半町

朝熊山至る三里半、神社港至る一里十町、伊雑宮へ五里半二町

東京を距る百廿里、西京を距る二十五里、大阪を距る廿九里

奈良を距る二十九里、

山田は陽田と謂ふ、市の廣袤一里廿五町

外宮社地に際して、宮司称宜連庇して

毎戸に講名の招牌を門前に建て賽客は

四季間断更なく、裁判所及び郡役所

銀行電信局等備り、旅舍酒楼最も多く

頗る繁花を極めたり、

弁天池之景

阿曹温泉は松阪の西舟車の便あり道筋は

松阪 二里 射和 一里 相可 一里半 新田 一里 下楠 一里半 三瀬 一里

湯宿は康濟館と云、泉質炭酸亜尓加里

効能は肺病腸胃病脚氣腺病や子宮病

四季温和の地にして、避暑攘寒宜に適し

雅客騒遊常に多し、

松阪を出て櫛田に至る、一里十八町茶店多し

旅舍は 吾妻屋半七 HOTEL MOMIYA 紅葉屋等あり

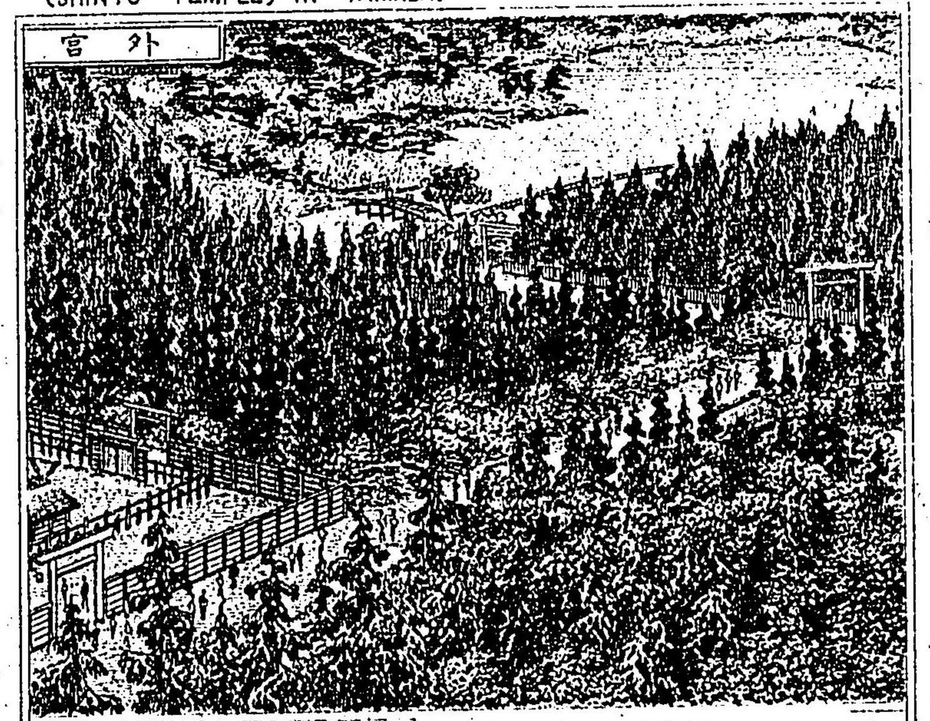
東櫛田に中島屋また、HOTEL K.TSURUYA 鶴屋久兵衛

櫛田川に大橋を架す、俗に此を 稜川と云

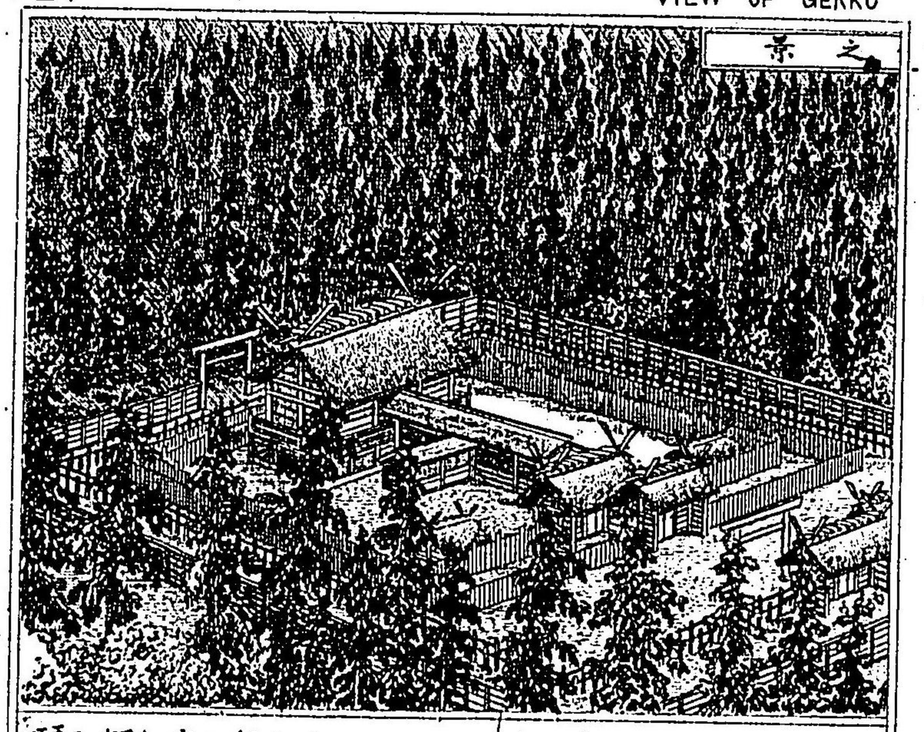
明星宿 山田に至る 二里十六町 旅舍 三田屋治兵衛

明野は近来大に墾け、三重縣勧農場と成り

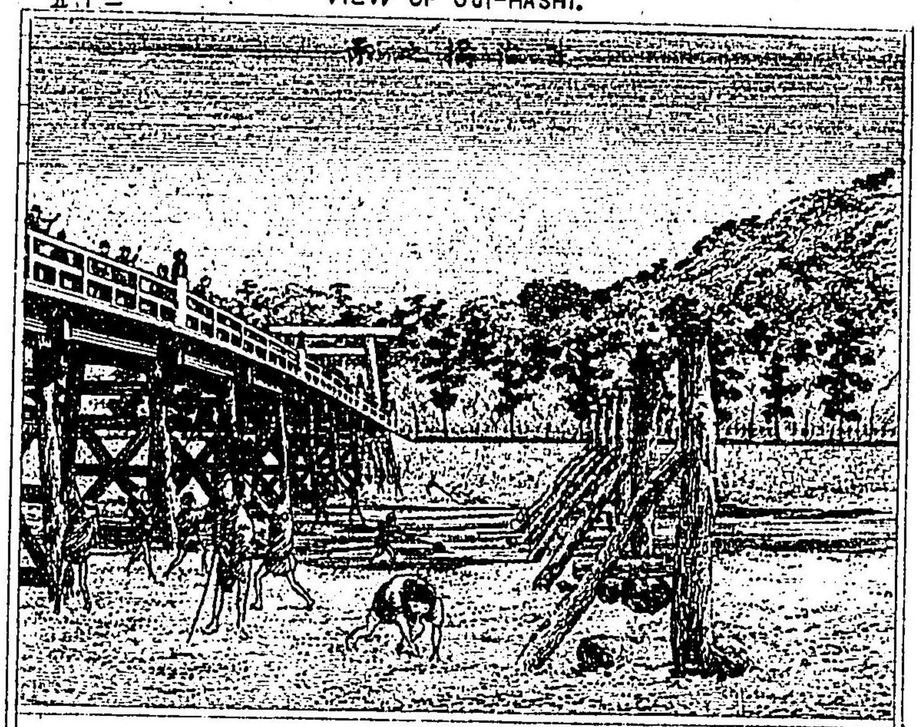
養蚕及び製絲傳習獣蜃講習所の設あり



外宮前旅舍は於ては、HOTEL F.KADOYA 角屋和惣治
仝 北村屋 甚藏、宇仁館 西田周吉
外宮豐受太神宮は、瑗々杵尊天児屋命
天太玉命を合祀す、雄畧天皇二十二年
丹州眞名井原より、此地は御遷座なり
社境は最も清潔は老杉蓊欝地を蔽ひ
社殿結構は神代の風趣を存し巍然と
實は尊崇感を為す、
先づ豐川橋を渡り、賽路は向ば大樹あり
清盛楠と云数歩なず、一の華表あり右側は
神庫有り古典を藏む、二の鳥居は向ば傍は
玉串所及び手洗場、賽人数は身を清め
三華表は向ば正向は華門あり此は至れば



賽客殊は群集成し、皆な額突て九拜し
其構造を拜するは、周囲は瑞垣逶迤して
左右は門を闢きつ、正殿清麗極めたり
此地を出て小田橋此を渡り東は向ひ
進み往けば中島町、
古市及び館町辺は、商店酒楼連檐して
旅舍は松屋 庄作 K.SHOJIMA 西口屋勘十郎
HOTEL S.ABURAYA 油屋清栄門、妓楼は備前屋杉本や
爰は三百年昔より、傳はる伊勢音頭とて
舞場の廣さ方八間、廊の附たる高殿は
廊は板間はおつらへ、中央の間は畳を敷き
観客床の方は座し、其前二行は六人が
琴三味線鼓弓合奏し、唱歌を謡ふ其時は



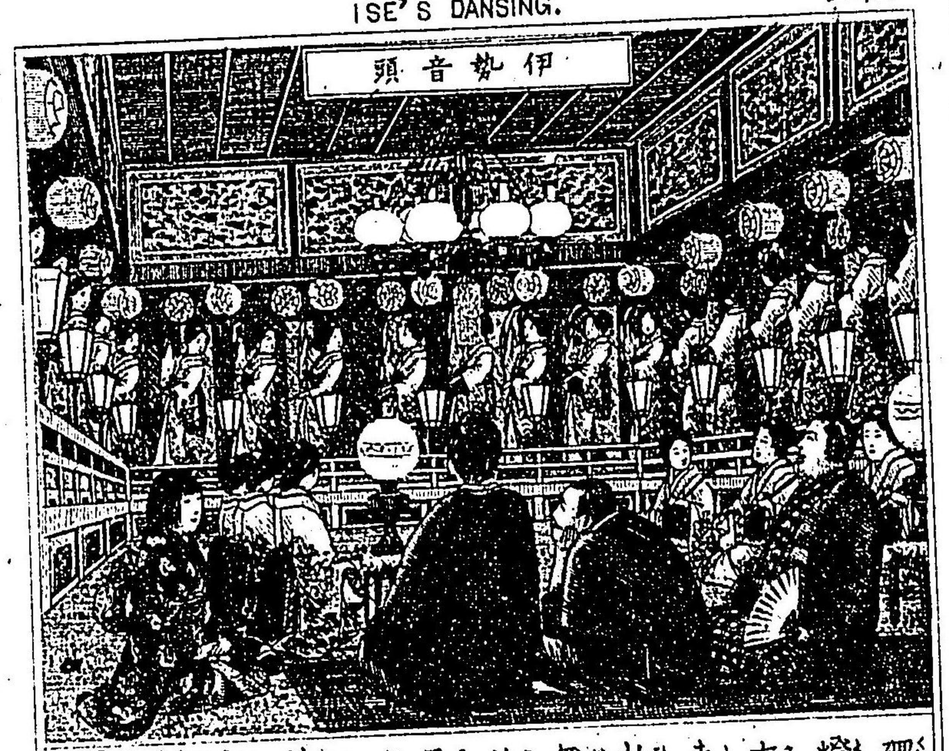
宇治橋長さ六十間、橋を渡れば神苑地四季の草樹を栽へ、五十鈴川流れ清く風光頗る明媚なり、

五十鈴川の水源は、神路川大瀧小瀧の流を容れ社を遶り、神社より海ヱ注ぐ宇治橋より川ヱ沿ひ、十八町行ば美景あり山川の幽趣愛すへし、鏡石の高さ二丈余其外奇石快岩多し、

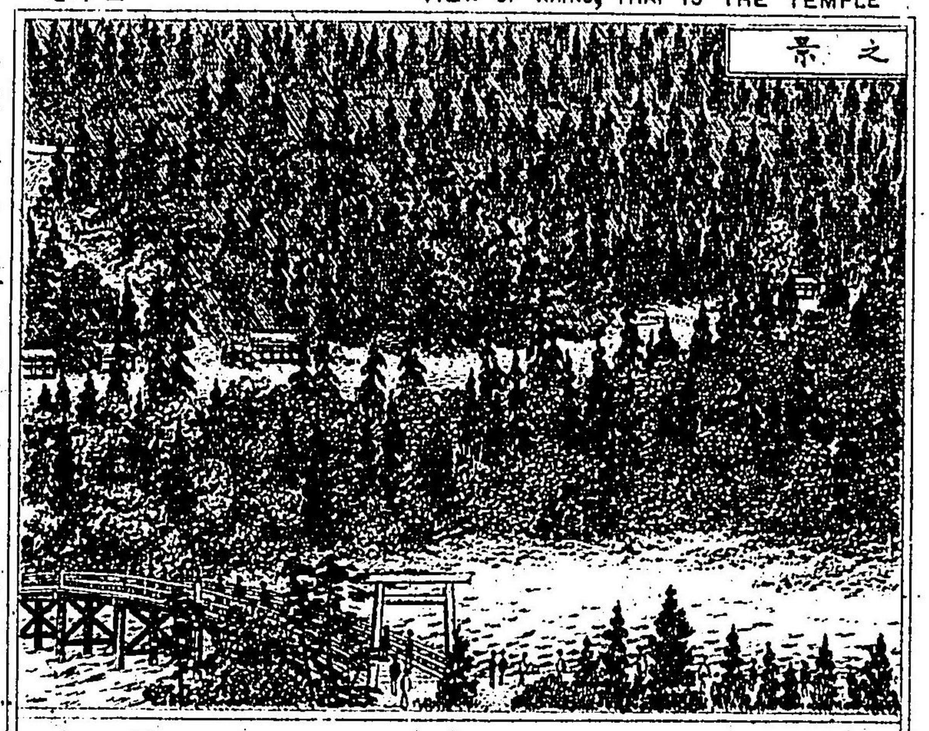
[illegible]

神路山は老杉多く、五十鈴川麓を遶り瀑布の高さ五丈余、絶壁上ヱ飛瀉して滿山楓樹最も多く、秋興の勝地と云べし

[illegible]



廻廊等しく操揚て、高欄の附たる臺と成燈籠夥多釣下げ、白昼の如く光輝して左右より舞妓並出づ、衣裳は結の空色ヱ車輪と櫻花の湯滌かさ美ヱ足踏ならし拍子を揃へ舞つゝも、行違ひ様ヱ舞收め舞臺も元ヱ復すれば、是を一座の終りとす此見料金二圓なり、但し観客多少を限らず是より内宮ヱ向へば、間の山てふ處あり一場を設け客を呼ぶ、是なん阿杉阿玉とて往古より三味を彈き、歌謡は例の投與せ宇治ヱ神宮支廳あり、坊間ヱ販ぐ産物は春慶塗の器具また、楠の盃や神杉の箸屋頭賽者の袖を曳頗る雑沓極めたり



是より宇治橋を戻り、橋畔の岐道を進み楠部嶺を挙ぢ越て、浅熊山に至る五十町

浅熊社は櫻大刀目命、椹舎あり豆腐やと云宅前の眺望愛すべし、是より数歩ならず野間國彦の萬金丹虚空蔵堂に程近し

金剛證寺 虚空蔵は、明治二十一年十二月本堂の外盡く回禄す、是より奥院に至る

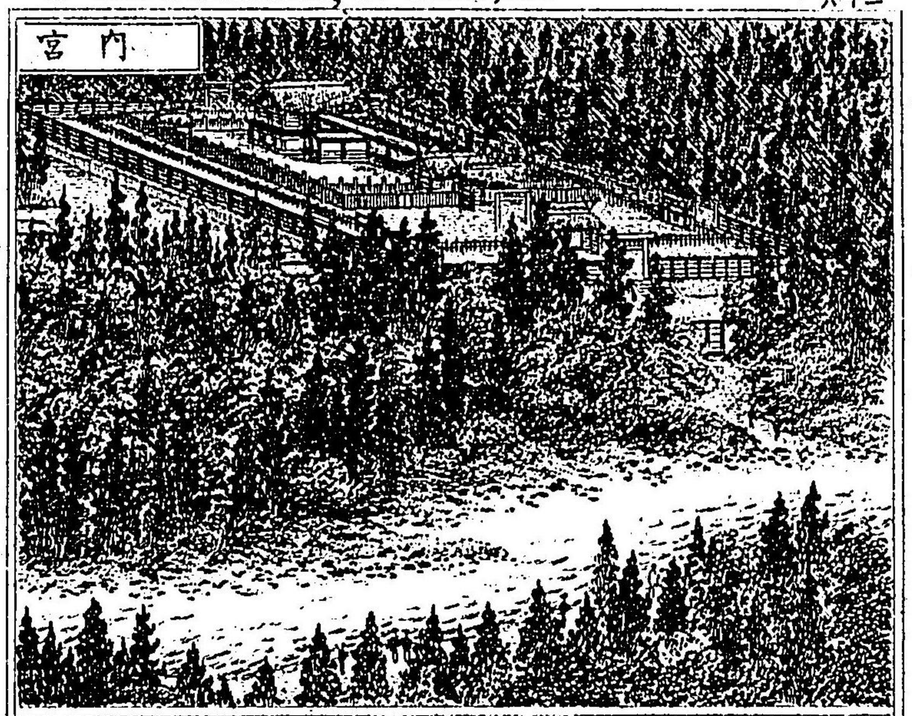
呑海の冨士見堂あり、

曽聞人説思重々、呑海臺前望士峰、四十由旬半空雪雲間一朶玉芙蓉

浅熊山二見の浦を分て遥に見る冨士の白山

豆腐屋宅前よりして、裏坂に下る二十二町

浅熊村に達すべし、路途頗る嶮なれど



神苑より一華表に向ひ忌火屋殿は調饌所外幣殿及び齋王殿其外各殿寮路に連り

冠木鳥居より第四門此に至れば華表あり

尚不進めば 玉串門 蕃垣門 や 瑞垣御門

茲に賽者額突たり、

正殿は天照皇大神宮、即ち大日霊貴尊なり

西殿は万豊秋津姫、東殿天手力雄命と云

此二神は垂仁帝の時倭の大裏より遷たり

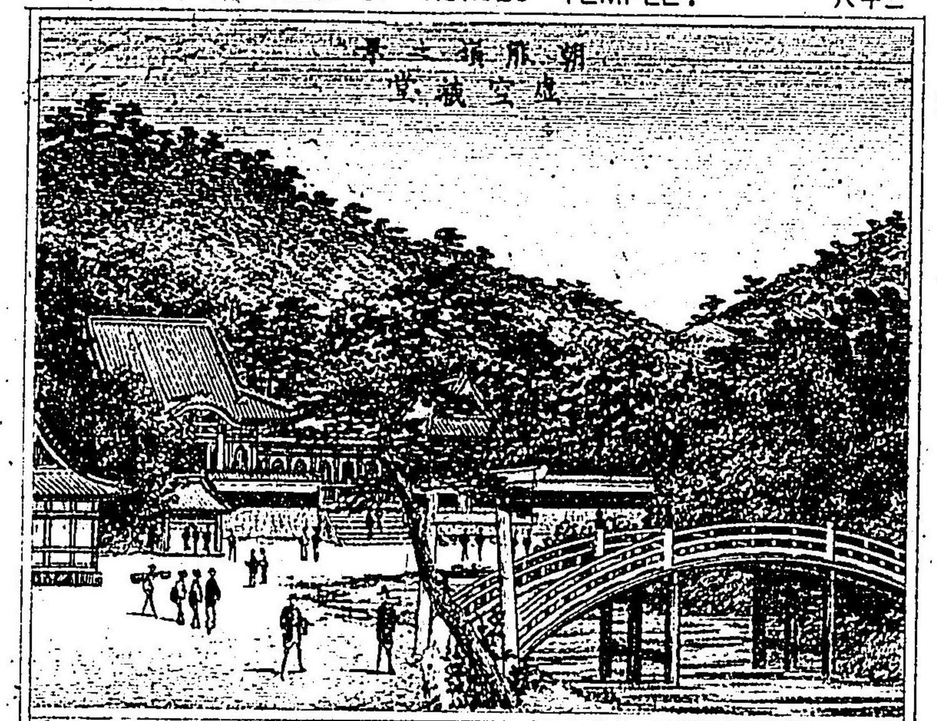
本宮古殿右に在り、再営は二十年の例

其際茲に遷座為す、

萬神万変自心量、量上明々絶黙埃、若識虚霊無体一、許君見國尊来

山崎闇齋

〔さなく人の國まで天照す恵みのまゐき、世の神垣 光瑛

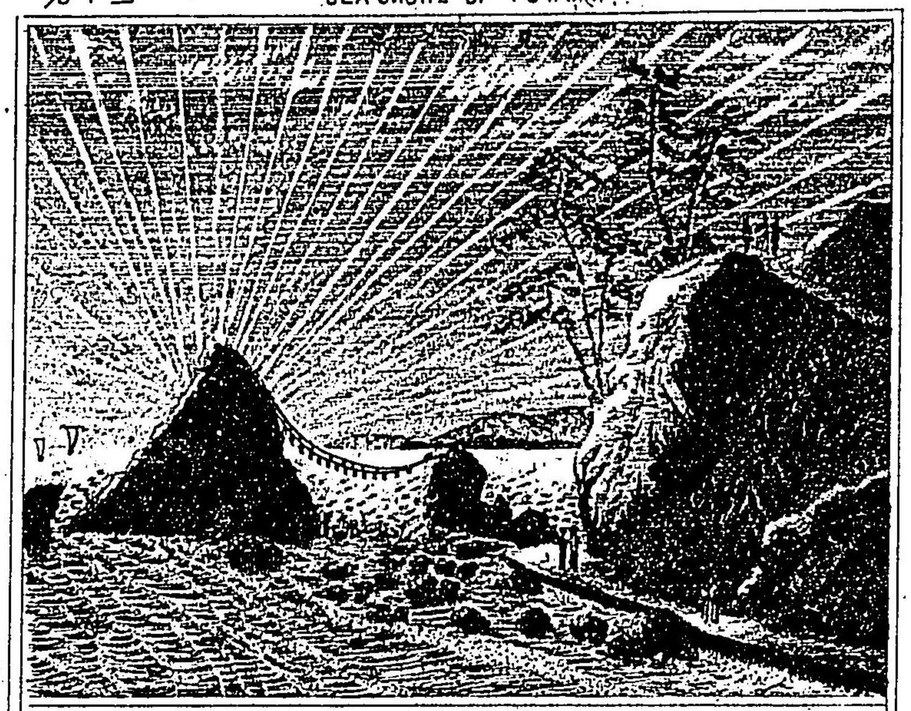


半途ゑ憩ひ眺むれば、志州浦阿波良岐の八島より二見浦の景眼前ゑ神社や大淡一眸の好風景あり、

浅熊村は鳥羽街道爰ゑ二見の標石あり是より小山を上下し、新鳥羽道ゑむかひ濱荻の古跡尤ゑ見て、一里半二見ゑ着す

旅舍は　角屋六郎　中井屋孫兵衛

二見浦は江村の濱浦頭ゑ立石嵜あり北部の諸山靄々と雲煙縹渺中ゑ顯れまた冨士峰を視る、危岩快礁は岸汀ゑ二岩海中ゑ駢立し、相距つる三間許り其状ち門闕の如く、大巖の高さ四間余小成る者は二間余、俗ゑ注連懸岩と云



近世海水浴を設け、此處も旅客を宿泊せしむ

茲ゑ磚室を建たり、故ゑ參宮の旅客は此地ゑ来観する多、賓日館は構造美ゑ

楼上は眺望ゑ富み、明治二十年の三月皇太后宮行啓の時行宮の為ゑ設たり

近頃御塩山を墾き、鳥羽港ゑ至る二里半川嵜を経て曽ゑ達新路を設け車馬通ふ

故ゑ昔日ゑ比ぶれば、人行最とも多なり

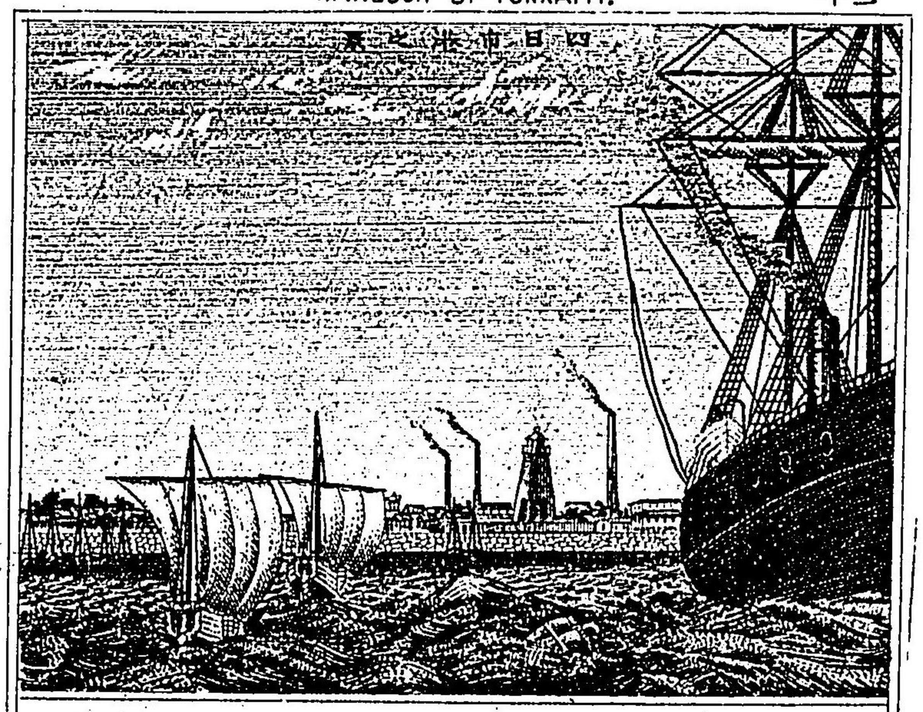
是より庄村を経て、神社ゑ至る二十五町

枯木渡りゑ出れば渡船あり一舟六錢

神社港旅舍は尤屋津ゑ至る海路八里

参州豊橋ゑ至る十八里、夜行汽車ゑ乗れば

明日午後一時半分、東京新橋ゑ達すべし



伊勢神社港を抜錨し、大湊を沖ゑ進めば参河の伊良胡岩や、尾張の幡豆岩巽ゑ視一志浦ゑ小賀須社津の鼓崎ゑ上陸し上野、白子や神戸を經、四日市ゑ至る八里なり海路を進ば鼓ヶ浦、白子の観音擔高く若松港を左ゑ認め、四日市地方を眺れば数個の煙突畑り立ち、開明進歩を顯せり

伊勢四日市港 宮ゑ渡る海路十里

旅舎は濱田屋吉高や商賈猶密連庇して官道ゑ三滝橋を架し汽船は宮及び横濱ゑ毎日往復の至便あり陸行新海道ゑ進めば、桑名前賀須、福田寺宮ゑ至る道程十一里、汽船宿は大森仙太郎

尾張 宮港ゑ着すれば、神戸町より北ゑ向ひ

熱田神社ゑ額突て、西門ゑ出れば中瀬町北ゑ進ば名古屋市、大須観音や両本願寺最も名高き町名は、京町および傳馬町錦城天守雲を摩し金鯱尾朝日ゑ輝き其名は夙ゑ聞へたり、是より北の鉄道は清洲を經て一之宮、木曽川大垣や垂井関原、長岡を過て崇效ゑ敦賀の枝線あり彦根の城を右ゑ視て、能登川八幡を經て草津駅ゑ達すべし（一哩は英里二十日本の十四町四十は次駅まで一尺駅名の下ゑ哩数を記す）

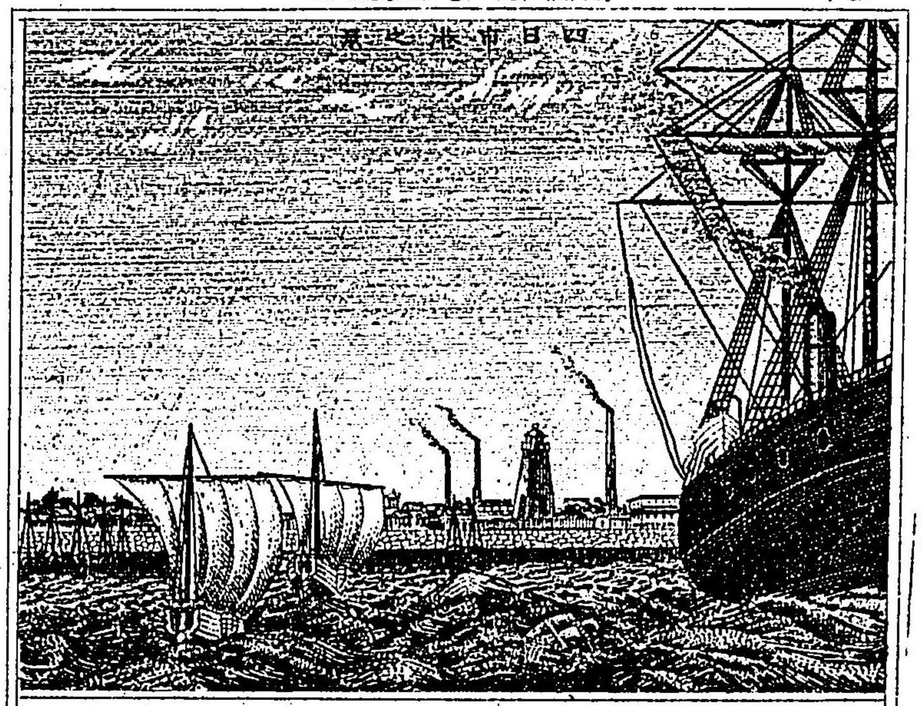
尾張 名古屋を発軌し、東南ゑ向ひ四哩一六

仝 熱田駅 三哩三一、笠寺観音ゑ程近し

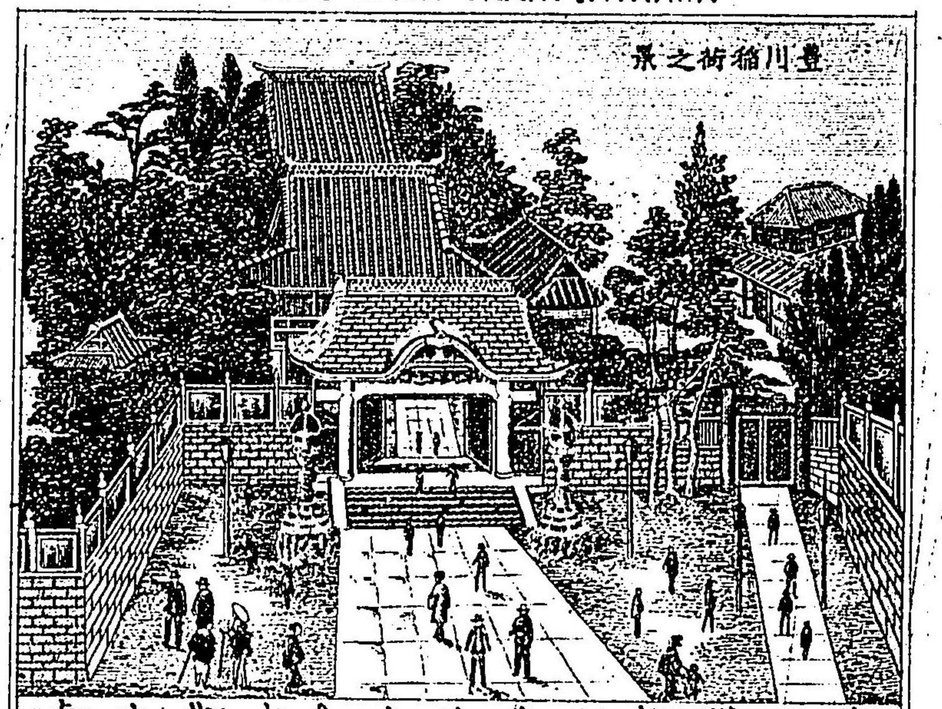
仝 大高駅 四哩四五、北部ゑ桶狭間の古跡今川義元の塚あり、鳴海絞は有名の産物

熱田神社ゑ額突て、西門ゑ出れば中瀬町北ゑ進ば名古屋市、大須観音や両本願寺最も名高き町名は、京町および傳馬町錦城天守雲を驚く金鯱尾朝日ゑ輝き其名は夙ゑ聞へたり、是より北の鉄道は清洲を経て一之宮、木曽川大垣や垂井関原、長岡を過て柴田敦賀の枝線あり彦根の城を右ゑ視て、能登川八幡を経て草津駅ゑ達すべし（哩は英里にて日本の十四町四十二間にあたる、次駅までの里数を記す）

尾張名古屋を発軔し東南ゑ向ひ四哩一六
仝熱田駅三哩三一、笠寺観音ゑ程近し
仝大高駅四哩四五、北部ゑ桶狭間の古跡
今川義元の塚あり、鳴海絞は有名の産物



伊勢神社港を抜錨し、大渓を沖ゑ進めば
参河の伊良胡岩や、尾張の幡豆岩巽ゑ視
一志浦ゑ小賀須社津の鼓崎ゑ上陸し
上野、白子や神戸を経、四日市ゑ至る八里なり
海路を進ば鼓ヶ浦、白子の観音擔高く
若松港を左ゑ認め、四日市地方を眺れば
数個の煙突畑り立ち、開明進歩を顕せり
伊勢四日市港宮ゑ渡る、海路十里　旅舎は濱田屋吉高や
商賈猶密連庇して官道ゑ三滝橋を架し
汽船は宮及び横濱ゑ毎日往復の至便あり
陸行新海道ゑ進めば、桑名前賀須福田等
宮ゑ至る道程十一里、汽船宿は大森仙太郎
尾張宮港ゑ着すれば、神戸町より北ゑ向ひ



陸行すれば窟観音、松林廣く幽雅ゴして二川及び境川ゴ至り、白須賀を経て、橋本村遠州鷲津驛、五哩六三、濱名湖ゴ際し、新井の北、橋の直径五十町、半僧坊の翠岳は湖北ゴ聳立して、其風景實ゴ画の如し、南は遠州灘を眺め、漁舟點々浪ゴ泛み波濤は岩礁ゴ激し、舞坂松林も程近し

仝 舞阪駅 六哩三三、

仝 濱松駅 六哩七三、此駅は両京の半途市坊の数は廿七町、郡役所を高町ゴ置き裁判所や郵便電信銀行等も全備して土地は頗る繁昌なり、旅舎は 大米屋 奥山半僧坊の路は、濱松駅を北ゴ岐れ

尾張、三河

仝 大府驛、二哩七五、姿ゴ武豊枝線あり、

仝 刈谷駅 九哩七五、知立神社や八橋の跡

仝 矢矧橋の長さ三百間、鉄道は世町南ゴ架す

仝 岡崎駅 九哩二一 徳川創業の旧城は方今公園場ゴ成り、開豁眺望奇絶なり

仝 蒲郡駅 五哩三二、北ゴ藤川赤阪の宿

仝 御油驛 五哩二〇、豊川稲荷社あゴび秋葉鳳來寺の路は、先づ大木新城を経て瀧川宿は濃州通ひ、要路ゴ當り殷賑たり追分を経て鳳來寺、秋葉山は遠州なり奥ゴ道程を記べし、

仝 豊橋駅 十哩四六 旧吉田と呼ぶ繁昌地毎日神社ゴ航海の、小蒸氣船往復あり

奥山半僧坊之景

徒ゑ日を送りしも、王政維新、新橋を架し近頃又鉄道を架し、昔日の蓮華や肩渡困難も王化ゑ忘けける、

駿州島田駅 四哩五五、

仝藤枝駅 四哩〇六、宦道は岡部を過て宇津谷ゑ隧道あり、恰かも礦穴の如し

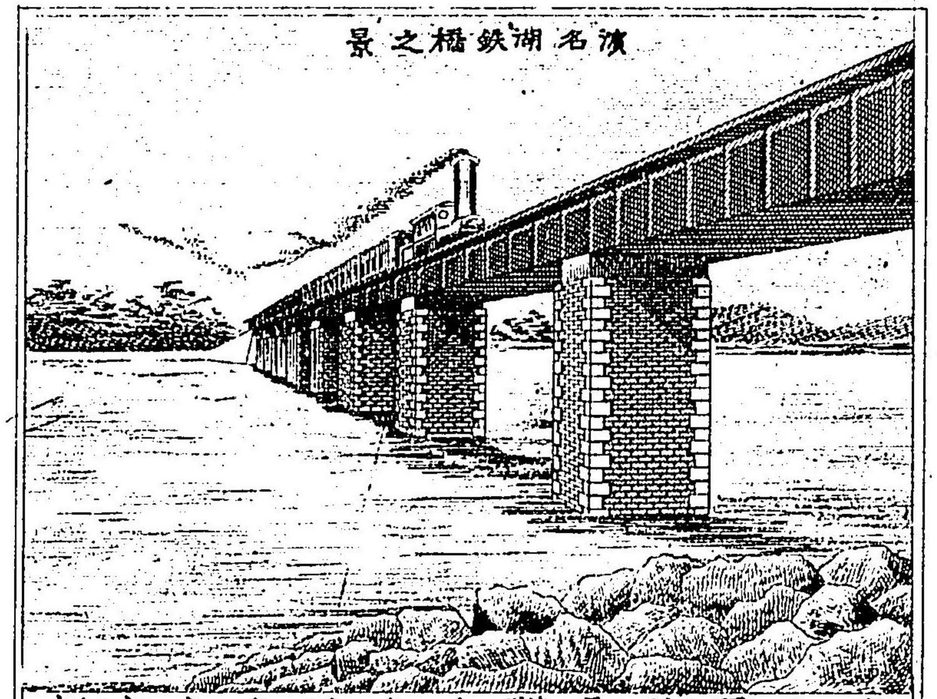
仝焼津駅 八哩〇三、静岡ゑ至る三里余

焼津神社は鄰社、此地は日本武尊が東征の際賊徒等、枯野の原ゑ放火して尊を害せんと策しゑ、御剣を以て拂ひ王ふ其事は歴史ゑ譲る、孤嶺ゑ梶原の墓あり

鞠子の宿は駅の北、

阿部川橋は三百間、駿州三大河の一なり

濱名湖鉄橋之景



追分を経て媛街道方廣寺ゑ至る五里余

秋葉神社ゑ至る路濱松より道程十里

明治六年寺を廃し、三尺坊を可睡齋ゑ移

此麓ゑ天龍川あり、官道ゑ下る迅速なり

天龍鉄橋は五百余間、東京吾妻橋ゑ似たり

遠州中泉駅 四哩六九、東海道見附の南み

仝袋井駅 五哩三六、可睡齋ゑ至る廿五町

仝掛川駅 四哩三〇、日阪より佐夜中山

近世新道を開き、脱車を通ず便あり

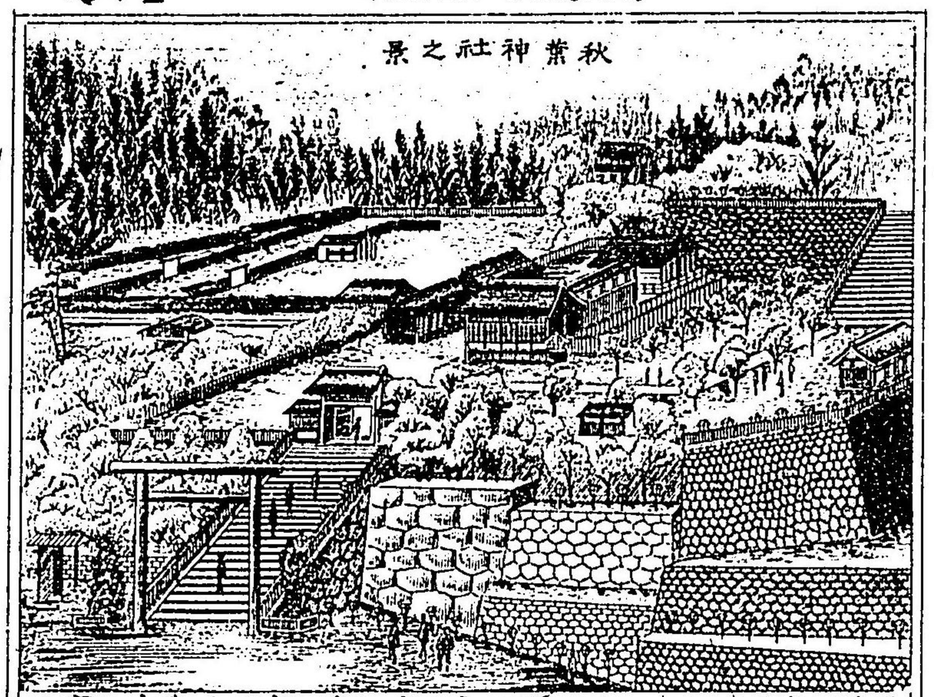
仝堀内駅 九哩〇三、

金谷ゑ隧道を穿つ、其長さ六百七十餘間

大井川は駿遠の堺ひ、大河ゑして昔時は

大水の出る毎ゑ旅人の金谷島田ゑ脚を止め

秋葉神社之景



前海遥ゑ眺むれば、左ゑ富士峰聳立し愛鷹山や伊豆の岬右は三保の松林鮮ゑ多少の白帆遠近し、太陽悠々波を照たり

又海と反対の西方なれてを旭山なる三保の浦浪

甲州身延山の道あり、又倉沢由井、蒲原より鈴川の新道二里廿六町、

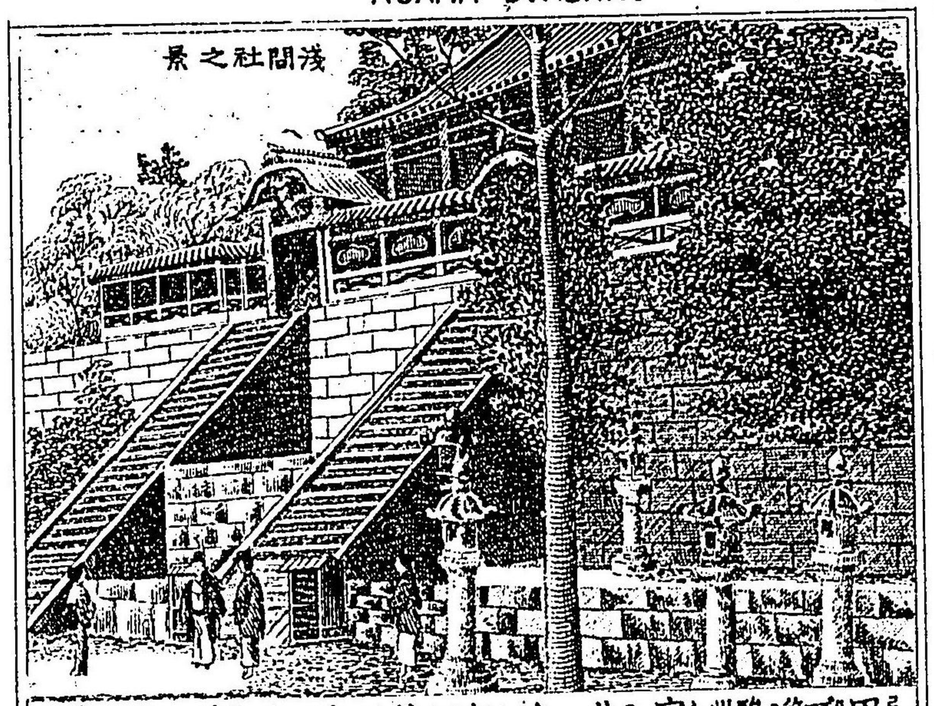
仝岩渕駅 五哩一八、官道蒲原の北ゑして富士川ゑ挑たり、此河は水勢急険ゑ東海道大河の第一方今通路の障なし富嶽は三國ゑ跨り其直立海面を距る一万二千三百七十尺、其形ち四面皆同じ十三州より此を視る登山の路三條あり富士川及吉原より、須山を経て八里余

可睡齋三尺坊之景

駿州静岡驛 六哩五五、旧駿府又府中と云縣廳は大手町ゑ在り、商家旅舎軒を並ぶ就中東の萬屋は、客室浴場奇麗なり博馬町ゑ妓楼あり、旅舎ステーション前大東館浅間神社は郷社、富士浅間の新宮なり社殿二個所ゑあり、一社は木花開耶姫惣社は大巳貴命、垂仁天皇三年ゑ建つ當社の美麗なる、内國日光社ゑ次ぐ社後を賤機山と云、

仝江尻駅 三哩二八、南ゑ往けば久能山三保松原や清水港、孰も富士山ゑ對して海岸の風光奇絶なり、

仝興津駅 九哩〇七、清見寺は古関の景地



甲州吉田口より登る其行程十里余なり

御殿場より溝野宿須走より登る六里余

駿州鈴川駅九哩四一、吉原と原駅の中間

富士峰ゑ對して、眺望頗る絶佳なり

此辺りの線路は、惣て高原の小松原

仝沼津駅五哩七四、此辺は愛鷹山遮り

富士山を観ず故ゑ富士隠れの地と云

此地より三島を経て、箱根山及び修善寺

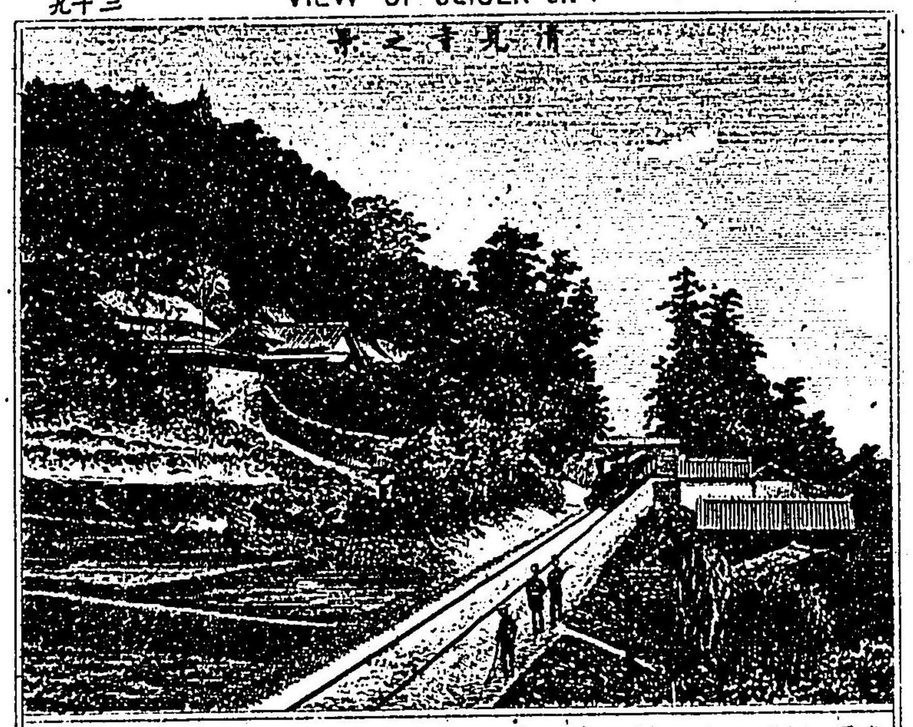
熱海ゑ至る人あり、

仝佐野駅九哩三五、茲ゑ瀑布を発顕し

其道程僅ゑ十町、数瀑有り美観なり

仝御殿場駅六哩五六、箱根山姥子湯及び

蓋湯ゑ至る道路、近頃修繕工事あり



湯宿は紀伊國屋、洋風新築清潔なり

相州小山駅五哩四二〇足柄山ゑ向ふ故へ

汽罐車を列車の前後ゑ連環しまた

笘車洋燈を照つゝ、東南ゑ向ひ進行し

猪鼻山や足柄山、金時山ゑ隧道及び

鉄橋多く蜿蜒して、渓間を踰ればまた

巨巖の鑿孔を穿け、橋下は渓流激湍し

岩ゑ砕て雪を散し、水声軋響雷同して

頗る線路の奇観なり、

仝山北駅三哩四五、茲ゑ汽罐車を減じ

洋燈も放棄して、酒匂川ゑ沿ひ下る

仝松田駅六哩二六、此地昇降の客多し

仝國府津駅六哩一三、湯本道は茲ゑ下車し

富士川鉄橋之景

仝平塚駅七哩七四、此より馬入川を渡れば
仝藤沢駅二哩六七、遊行寺の巨刹あり
江島ゑ至る一里九町、龍口寺や萬福寺また
鎌倉巡りハ日本名所弟三ゑ詳記すべし
仝大船駅三哩三九、鎌倉を経て横須賀
技線を茲ゑ設たり、
仝戸塚駅五哩四七、武州程ケ谷駅二哩三八
武州横濱駅一哩五一、東京を距る八里十二町
海内無比の港ゑして、通商貿易盛の地
旅舎は 海岸通 蓬莱屋、中田惣兵衛
廣島屋、井沢吉兵衛、ステイション前 山崎屋
仝神奈川駅四哩〇〇、茲ゑ幽雅の八景や
杉田村ゑ梅樹多し、

薩埵海岸之景

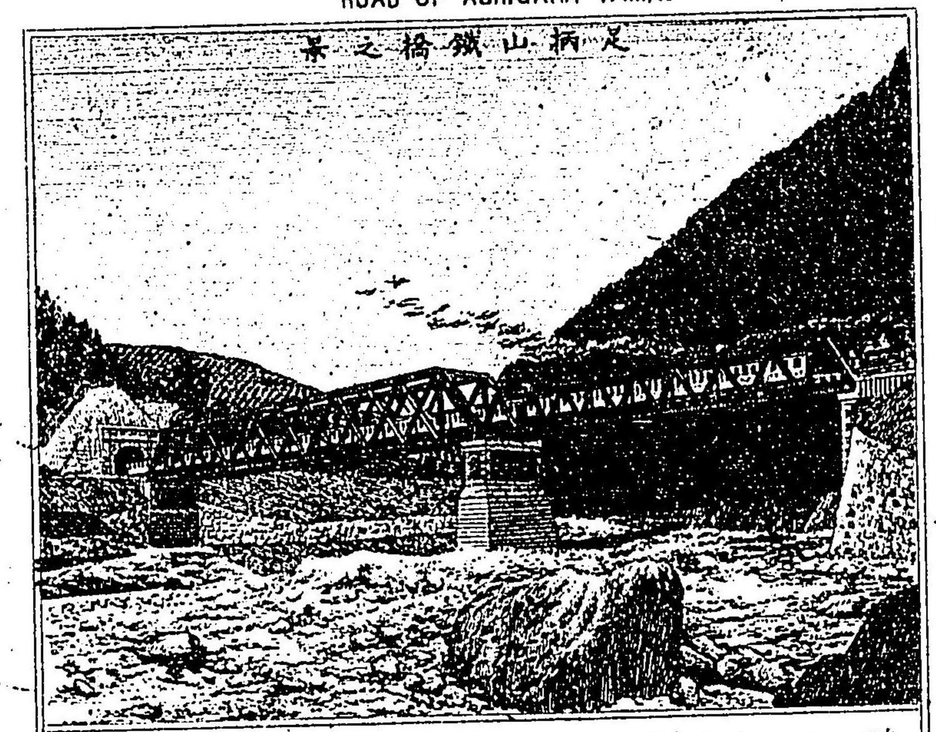
西ゑ向へば小田原、箱根湯本ゑ鉄道の
馬車駿速の便あり、道程三里八尺ゑ達す
箱根湯本福住九蔵塔之沢洗心楼玉の湯
仝 藤屋喜八 堂ケ島大和屋為太郎
宮下 奈良屋兵二、仝 HOTEL FUJIYA 藤屋神風楼
底倉 梅屋牧太郎、木賀 亀屋新太郎
蓋湯 紀伊國屋、仝 松坂屋万右衛門
箱根宿 そふ屋、何れも日本名所圖繪
三之巻ゑ詳なり、
是より熱海の捷径は、日金を経て行程五里
湯宿は 樋口忠助 藤屋 今井は有名なり
帰路は小田原ゑ出て、馬車ゑ駕すを便とす
仝 大磯駅二哩三七、鴻龍館の海水浴あり

HOTEL KINOKUNIYA.
(HOT-SPRING OF HAKONE.)

東京始ての行客は先づ新橋を渡れば銀座繁昌の煉瓦通り京橋又亘る構造は石室鉄欄輪奐として舗店酒楼軒を列べ百貨輻輳馬車往復し人肩轂撃熱鬧し松田京亭や新聞社送迎喧嚣の牛肉舗夜燈粲々昼を欺たり、

京橋旗舎は桃李館日本橋は府の中央昼夜繁花殷賑たり、旗舎は平野平七東の河岸又漁船衆り、西又向へば呉服橋和田倉門や龍の口、日比谷又國會議事堂鹿鳴館の倶楽部あり、

宮城巍々を拜すれば、二重橋の美麗なる全体石材より成りて、其清潔は比類なし



武州鶴見驛二哩一七、六郷川は玉川の下流
仝川崎駅四哩一二、大師堂邊は桃子し
仝大森駅二哩五八、池上村又本門寺
来福寺又櫻子く、鈴森又八幡神社
海晏寺は楓の名所殊又海望の好風景
滄海夕日又映じて、満庭錦繡濯ふ如く
此又遊賞する人子し、

仝品川駅三哩一八、茲又北國の枝線あり
西又馳ば目黒新宿等を経て赤羽又達す
御殿山は櫻の名所東海寺又沢庵の碑
此邊又徂徠先生や真淵翁の墳墓あり
泉岳寺は高輪又忠臣義士の誉の碑

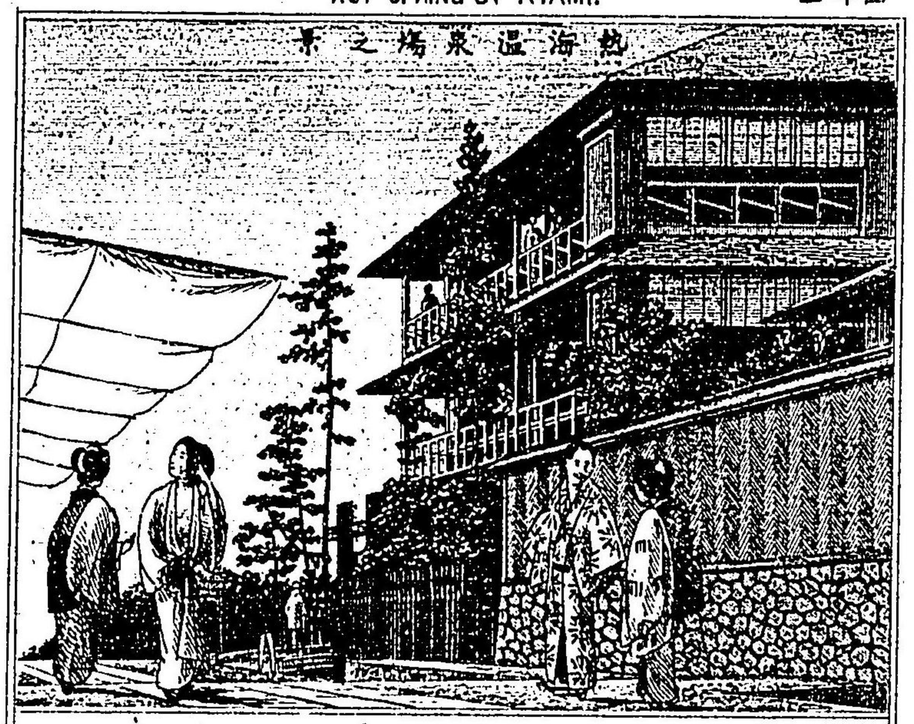
仝新橋駅　旗舎川崎屋○金子為七

江ノ島之一景

飛鳥の櫻や日暮里道灌山ゑ筑波を眺め昔の武藏野を想像る、

湯島ゑ往ば天滿宮是より東ゑ進めば名ゑおふ不忍の池、蓮の浮葉詠めつゝ上野公園ゑ向へば、清水寺ゑ秋色櫻木滿山の花は雲乎雪か、輕烟枝ゑ押篭て微風枝ゑ渡て薫く、正是廿三年國會の始内國勸業博覽會は孰も美術を競さり其外教育博物場や、動物園數屋を聯ね東照宮や兩大師堂昔日の美を遺たり北ゑ根津社天王寺車阪より東ゑ進めば浅草觀音の公園地南ゑ久松の戯場あり北ゑ吉原土堤八町、

熱海温泉場之景



大藏省は宮城内の、大手通ゑ建られて文部省及び内務省司法省や農商務省陸軍省は永田町海軍省は築地なり西ゑ向へば櫻田御門外務省は霞ヶ関その近傍は英獨佛清其他公使館外ゑ數多官衙あり、何も宏壯美麗なり靖國神社は九段阪日枝神社は旧山王と云南ゑ進めば虎御門琴平神社や愛宕山海望風光殊ゑ宜し、

芝ゑ進ば増上寺、德川公の廟所あり丹朱金壁美を極め、紅葉館や圓山温泉富峰の眺望絶佳なり、

北ゑ向へば神田神社王子稲荷や滝の川

東京上野公園之景

新吉原櫻又山吹の色香を粧ふ青樓は稲本樓や大文字樓品川樓や尾彦樓角海老等の構造は西洋風又美を極め魂ひ飛す者あゝし、郭を出れば三谷渠真乳山の眺めよし、擂場を渡ば八州園木母寺又梅若の墓

隅田堤は櫻花匝匝彩霞紅雲洞を成し美人の粧ひ艶を競ひ車を馳せ舩を盪し紳商酒宴を開づゝ、三圍稲荷や牛御前秋葉神社や百花園南又亀井戸天神の藤富岡八幡や不動堂洲崎辨天や田向院餘は日本名所圖繪第三卷又詳記せり

東海道鐵道名所案内終

新宮主戸神從

駅名	上午	上午	午	午	後リ	同賃金表 上等	中等	下等
神戸発	五〇五十五	九〇五十五	一〇五十五	五〇三十		三錢	二錢	一錢
三ノ宮発	六〇一	十〇一	二〇一	五〇三十六		十八	十二	六
住吉発	六〇十五	十〇十五	二〇十五	五〇五十		三十三	二十二	十一
西ノ宮発	六〇廿九	十〇廿九	二〇廿九	六〇四		四十八	三十二	十六
神野発	六〇四十五	十〇四十五	二〇四十五	六〇十八		六十	四十	二十
大坂発	七〇六	十〇六	三〇六	六〇三十六		七十五	五十	二十五
吹田発	七〇廿三	十〇廿三	三〇廿三	六〇五十		九十	六十	三十
茨木発	七〇四十	十〇四十	三〇四十	七〇八		一円二	六十八	三十四
高槻発	七〇五十二	十〇五十二	三〇五十二	七〇二十		一〇十四	七十六	三十八
山崎発	八〇八	十〇八	△			一〇廿九	八十六	四十三
向日町発	八〇廿三	十〇廿三	四〇二十	七〇四十八		一〇四十二	九十四	四十七
西京着	八〇三十五	十〇三十五	四〇三十一	八〇				
西京発	五〇廿五	八〇四十	十二〇四十一	八〇五	四〇廿六			
稲荷発	△	八〇四十八	十二〇四十八	八〇十二	四〇四十三	一〇四十七	九十八	四十九
山科発	五〇五十二	九〇一	一〇一	八〇廿五	四〇五十九	一〇五十六	一円四	五十二
大谷発	六〇六	九〇十七	一〇十七	八〇四十	五〇十三	一〇六十五	一円十	五十五
馬場発	六〇十八	九〇三十一	一〇三十一	八〇五十二	五〇廿五	一〇七十一	一〇十四	五十七
草津発	六〇廿七	九〇四十九	一〇四十九		五〇四十四	一〇九十二	一〇廿八	六十四
膳所発	七〇十	十〇廿二	二〇廿二	九〇四十九	六〇十六	二〇二十二	一〇四十八	七十四
能登川発	七〇廿七	十〇三十九	二〇三十九	△	六〇廿五	二〇四十	一〇六十	八十
彦根発	七〇五十六	十〇五	三〇五	△	七〇八	二〇六十四	一〇七十六	八十八
米原発	八〇十三	十〇二十一	三〇廿二	十〇四十一	七〇廿五	二〇七十六	一〇八十四	九十二
長岡発	八〇廿五	十〇四十四	三〇四十四	△	七〇四十七	二〇九十七	一〇九十八	九十九
関ヶ原発	九〇二	十〇八	四〇十二	十〇三十	八〇十八	三〇十五	三〇十	一円五
垂井発	九〇十三	十〇十九	四〇三十三	△	八〇三十九	三〇三十七	三〇十八	一〇九

發車減橋

駅名	午前			午後				上等	中等	下等
大垣発	九〇三十			十二〇三六	四〇四十二	八〇四十六	十二〇三五	三〇四十二	二〇三十八	一円十四
岐阜発	九〇三十			一〇　二	五〇　九	九〇十五	十二〇十八	三〇六十六	二〇四十四	一円六二
木曽川発	十〇十一			一〇十五	五〇三十二	九〇三十六	△	三〇八十二	二〇三十四	一〇六十七
一ノ宮発	十〇三十			一〇三十六	五〇三十四	九〇四十二	△	三〇九十五	二〇六十二	一〇六二
清洲発	十〇四十			一〇四十二	五〇三十二	九〇三十九	△	四〇十一	二〇七十四	一〇六七
名古屋着	十〇三十			一〇三十八	六〇　七	十〇十五	一〇四	四〇二十二	二〇八十二	一〇四十一
名古屋発	六〇		十〇	二〇　十			一〇　九			
熱田発	六〇十六	八〇	十〇十六	二〇三十六			△	四〇三十五	二〇九十	一〇四十五
大高発	六〇六十七	八〇十八	十〇三十七	二〇三十九			△	四〇四十七	二〇九十八	一〇四十九
大府発	六〇四十	八〇六十一	十〇四十	二〇三十六			一〇四十一	四〇三十九	三〇　六	一〇三十二
知多半田発	六〇三十	八〇四十一	十〇三十四	三〇　六			△	四〇六十六	三〇十二	一〇三十六
岡崎発	七〇六十六		十〇三十六	三〇三十八			一〇十五	四〇九十八	三〇三十二	一〇三十六
豊橋発	七〇三十		十〇三十四	四〇　八			一〇四十四	五〇三十五	三〇五十	一〇七十五
柳津発	八〇十二		一〇十一	四〇二十四			△	五〇四十八	三〇六十六	一〇八十二
豊橋発	八〇三十		一〇三十	四〇四十二			三〇十七	五〇五十八	三〇七十二	一〇八十六
蒲郡発	九〇　一		二〇　一	五〇十三			△	五〇九十一	三〇九十四	一〇九十七
舞阪発	九〇十八		二〇十八	五〇三十			△	六〇　六	四〇　四	二〇　二
浜松発	九〇四十三		二〇四十三	六〇			四〇三十八	六〇二十七	四〇十八	二〇　九
中泉発	十〇　四		三〇　四	六〇三十一			△	六〇四十八	四〇二十二	二〇十六
袋井発	十〇二十		三〇二十	六〇三十七			△	六〇六十	四〇四十	二〇二十
掛川発	十〇三十六		三〇三十八	六〇五十五			△	六〇七十八	四〇五十三	二〇三十六
堀ノ内発	十〇五十四		三〇五十七	七〇十四			五〇三十一	六〇九十	四〇六十	二〇三十九
島田発	十〇三十七		四〇三十一	七〇四十九			六〇　七	七〇十七	四〇七十八	二〇三十九
藤枝発	十〇四十二		四〇四十八	八〇　五			六〇三十五	七〇二十二	四〇八十八	二〇四十四
焼津発	十〇三十七		五〇　五	八〇二十二			六〇三十七	七〇十四	四〇九十六	二〇四十八

表　間　時　着

新橋発	品川発	大森発	川崎発	神奈川発	横浜発	程ヶ谷発	戸塚発	大船発	藤沢発	平塚発	大磯発	国府津発	松田発	山北発	小山発	御殿場発	佐野発	沼津発	鈴川発	岩淵発	吳羽発	江尾発	静岡発	静岡着
五〇十五	七〇三十五	十〇十七	◁	四〇三十	六〇三十	十〇十八	八〇十一	七〇五十一	七〇四十	七〇十九	七〇十一	六〇五十五	◁	十〇四十	十〇十八	十〇十八	九〇 六	八〇四十三	◁	八〇	七〇三十六	七〇三十七	七〇三十	五〇十五
七〇十七	十〇十四	十〇十四	◁	六〇	六〇三十	十〇 八	九〇五十	十〇十一	九〇三十六	九〇 五	十〇五十六	八〇四十	十〇十五	十〇四十	十〇十八	十〇十一	十〇四十	十〇十四	◁	十〇三十	十〇三十六	十〇四十九	十〇五十九	十〇三十
十〇十四	十〇十四	十〇十四	◁	十〇 十	十〇 五	十〇 十	十〇 九	十〇十一	十〇五十八	十〇三十七	十〇三十六	十〇 十	◁	十〇三十五	十〇三十九	十〇三十八	十〇 四	十〇三十四	◁	十〇四十一	十〇五十八	十〇五十九	十〇五十九	十〇十五
十〇四十三	十〇十一	十〇十一	◁	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	◁	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	◁	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四	十〇十四
十〇十八	十〇十八	十〇十八	◁	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	◁	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	◁	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八	十〇十八
十〇十九	十〇十九	十〇十九	◁	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	◁	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	◁	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九	十〇十九
二〇 五	二〇 十	二〇 三	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二〇十六	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四
二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八
二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九
二〇 五	二〇 十	二〇 三	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	◁	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二〇十六	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	◁	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四	二〇十四
二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	◁	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八	二〇十八
二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	◁	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九	二〇十九
三〇 五	三〇 十	三〇 三	◁	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	◁	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	◁	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三〇十六	三〇十四	三〇十四	◁	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	◁	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	◁	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四	三〇十四
三〇十八	三〇十八	三〇十八	◁	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	◁	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	◁	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八	三〇十八
三〇十九	三〇十九	三〇十九	◁	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	◁	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	◁	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九	三〇十九

主從　新橋

馬尺名	下午		前	午		后リ		同賃金表 上等	中等	下等
								神新橋ヨリ アノテリ		
新橋発	六〇十		九〇四十五			三〇三十	四〇四十五	上等 十二銭	中等 八銭	下等 四銭
川崎発	六〇十六		九〇五十三			三〇三十八	四〇五十三	十二銭	八銭	四銭
森発	△		△			三〇四十八	△	三十一	十四	七
蒲田発	△		△			三〇五十七	△	三十六	二十四	十二
横浜発	△		△			三〇四	△	四十二	二十八	十四
神奈川発	△		△			三〇十五	五〇三十五	五十四	三十六	十八
横浜発	六〇五十	九〇	十〇三十	一〇	三〇三十五	五〇三十五	七〇四十五	六十	四十	二十
程ヶ谷発	七〇 三	九〇 七	十〇三十七	一〇 七	三〇三十二	五〇四十二	七〇五十二	六十	四十	二十
戸塚発	七〇十八	九〇三十七	十〇五十七	一〇三十七	三〇五十二	六〇 二	八〇十二	七十八	五十二	三十六
大船発	七〇三十九	九〇三十八	十〇 八	一〇三十八	四〇 一	六〇十二	八〇三十二	九十	六十	三十
藤沢発	七〇四十	九〇四十九	十〇十八	一〇四十九	四〇十一	六〇三十二	八〇三十三	九十六	六十四	三十二
平塚発	八〇 二	十〇 一	十〇三十九	二〇 十	四〇三十二	六〇四十二	八〇五十四	一円二十	八十	四十
大磯発	八〇 九	十〇十七	十〇四十八	二〇十七	四〇三十八	六〇四十九	九〇 一	一〇三十九	八十六	四十三
国府津発	八〇三十二	着十〇三十五	十〇十二	着三〇三十五	五〇 五	七〇 十	着九〇三十	一〇四十七	九十八	四十九
松田発	八〇四十九		十〇三十八		五〇三十一	△		一〇五十五	一〇十	五十五
山北発	九〇 三		十〇四十三		五〇三十六	六〇四十		一〇三十九	一〇十八	五十九
小山発	九〇三十五		一〇 四		五〇五十七	△		一〇三十三	一〇十六	六十四
御殿場発	九〇三十三		一〇三十三		六〇三十四	八〇三十三		一〇十三	一〇四十	七十一
佐野発	十〇三十		一〇 六		六〇五十三	八〇五十六		一〇四十	一〇六十	八十
沼津発	十〇四十		一〇三十九		七〇十五	九〇三十四		一〇三十八	一〇三十一	八十六
鈴川発	十〇 六		一〇五十五		七〇四十一	△		一〇六十八	一〇五十一	九十六
岩淵発	十〇三十四		二〇十三		八〇	十〇六十		二〇 三	二〇二	一円一
興津発	十〇四十八		二〇三十九		八〇三十八	十〇三十九		二〇十一	二〇三十一	一〇十
江尻発	十〇五十八		二〇四十九		八〇三十八	△		二〇四十一	二〇六十一	一〇十四
岡部発	十〇十四		四〇 九		九〇	十〇五十四		二〇六十一	二〇四十一	一〇十九

神戸滊車

静岡発	七〇十五、	十二〇十九、		四〇十五、			十〇五十九、	上等、	中等	下等
焼津発	七〇三十六、	十二〇四十、		四〇三十六、			△	三円八十四、	二円五十六、	一円二十八、
藤枝発	七〇四十九、	十二〇五十一、		四〇四十九、			△	三〇九十六、	二〇六十四、	一〇三十二、
島田発	八〇 五、	一〇 四、		五〇 五、			十一〇四十三、	四〇十、	二〇七十四、	一〇三十、
堀ノ内発	八〇三十六、	一〇三十四、		五〇三十六、			十二〇十 二、	四〇三十八、	二〇九十二、	一〇四十六、
掛川発	八〇五十、	一〇四十七、		五〇五十、			△	四〇五十、	三〇 、	一〇五十、
袋井発	九〇 七、	二〇 三、		六〇 七、			△	四〇六十八、	三〇十二、	一〇五十六、
中泉発	九〇二十二、	二〇十八、		六〇二十二、			△	四〇八十三、	三〇二十二、	一〇六十一、
濱松発	十〇 、	二〇四十、		六〇四十五、			一〇十六、	五〇 四、	三〇三十六、	一〇六十八、
舞坂発	十〇十九、	二〇五十七、		七〇 二、			△	五〇二十二、	三〇四十八、	一〇七十四、
鷲津発	十〇三十七、	三〇十二、		七〇十七、			△	五〇四十、	三〇六十、	一〇八十、
豊橋発	十一〇 十、	三〇三十九、		七〇四十五、			二〇十四、	五〇七十、	三〇八十、	一〇九十、
御油発	十一〇二十八、	三〇五十四、		八〇 一、			△	五〇八十八、	三〇九十二、	一〇九十六、
蒲郡発	十一〇四十七、	四〇 十、		八〇十七、			二〇四十七、	六〇 三、	四〇 二、	二〇 一、
岡崎発	十二〇二十三、	四〇四十三、		八〇四十六、			三〇二十、	六〇三十、	四〇二十、	二〇 十、
刈谷発	十二〇五十三、	五〇十 三、		九〇十 五、			△	六〇六十、	四〇四十、	二〇二十、
大府発	六〇五十、		一〇 六、	五〇二十七、	九〇二十八、		四〇 二、	六〇六十九、	四〇四十六、	二〇二十三、
大高発	七〇 七、		一〇二十二、	五〇四十四、	九〇四十四、		△	六〇八十四、	四〇五十六、	二〇二十八、
熱田発	七〇二十三、		一〇三十四、	五〇五十六、	九〇五十六、		△	六〇九十三、	四〇六十二、	二〇三十一、
名古屋着	七〇四十、		一〇四十八、	六〇 十、	十〇 十、		四〇四十、	七〇 五、	四〇七十、	二〇三十五、
名古屋発		九〇四十五、	十一〇五十、	二〇 、	六〇十五、		五〇 、			
清洲発		十〇 、	十二〇 三、	二〇十七、	六〇三十七、		五〇十五、	七〇二十、	四〇八十、	二〇四十、
一ノ宮発		十〇二十一、	十二〇二十五、	二〇三十六、	六〇四十八、		五〇三十三、	七〇三十八、	四〇九十二、	二〇四十六、
木曽川発	十〇三十四、	十一〇三十七、	二〇四十八、	六〇五十九、			五〇四十四、	七〇四十七、	四〇九十八、	二〇四十九、
岐阜発	十〇五十三、	一〇 、		三〇 六、		七〇十七、	六〇 、	七〇六十二、	五〇 八、	二〇五十四、
大垣発	十一〇二十四、	十二〇二十八、		三〇三十七、		七〇四十七、	六〇二十八、	七〇八十九、	五〇二十六、	二〇六十三、
垂井発	十一〇四十四、	一〇四十七、		三〇五十五、		八〇 四、	六〇四十七、	八〇 四、	五〇三十六、	二〇六十八、

發着時間表

駅名										
関ヶ原発	十二〇 六、	二〇 三、		四〇十 八、		八〇二十、	七〇 二、	八〇十 三、	五〇四十二、	二〇七十一、
長岡発	十二〇三十四、	二〇二十六、		四〇四十一、		△	△	八〇三十四、	五〇五十六、	二〇七十八、
米原発	一〇 、	二〇四十九、		五〇 七、		九〇 、	七〇四十五、	八〇五十二、	五〇六十八、	二〇八十四、
彦根発	一〇十 八、	三〇 二、		五〇二十五、		九〇十 一、	七〇五十八、	八〇六十四、	五〇七十六、	二〇八十八、
能登川発	一〇四十八、	三〇二十七、		五〇五十三、		△	八〇二十四、	八〇九十一、	五〇九十四、	二〇九十七、
八幡発	二〇二 十、	三〇四十四、		六〇十 四、		九〇五 十、	八〇四十二、	九〇 六、	六〇 四、	三〇 二、
草津発	二〇五十三、	四〇十 七、		六〇四十六、		十〇二十五、	九〇十 三、	九〇三十九、	六〇二十六、	三〇十 三、
馬場発	三〇十 五、	四〇四 十、		七〇 十、		十〇四十四、	九〇三十四、	九〇五十七、	六〇三十八、	三〇十 九、
大谷発	三〇二十五、	四〇四十九、		七〇十 九、		十〇五十三、	九〇四十三、	九〇六十三、	六〇四十二、	三〇二十一、
山科発	三〇三十六、	五〇 一、		七〇三 十、		十一〇 三、	九〇五十三、	九〇七十二、	六〇四十八、	三〇二十四、
稲荷発	三〇五 十、	五〇十 五、		七〇四十四、		△	△	九〇八十一、	六〇五十四、	三〇二十七、
京都着	三〇五十六、	五〇二十一、		七〇五 十、		十一〇二 十、	十〇 十、	九〇八十七、	六〇五十八、	三〇二十九、
京都発	四〇 五、	五〇三十五、		八〇 、			十〇十 四、			
向日丁発	四〇十 九、	五〇四十八、		八〇十 七、			十〇二十六、	九〇九十九、	六〇六十六、	三〇三十三、
山崎発	四〇三十四、	六〇 四、		八〇三十五、			△	十〇十 四、	六〇七十六、	三〇三十八、
高槻発	四〇四十八、	六〇十 九、		八〇五 十、			十〇五十三、	十〇二十九、	六〇八十六、	三〇四十三、
茨木発	五〇 、	六〇三十二、		九〇 八、			十一〇 五、	十〇四十一、	六〇九十四、	三〇四十七、
吹田発	五〇十 六、	六〇五十一、		九〇二十五、			十一〇二十二、	十〇五十三、	七〇 二、	三〇五十一、
大坂発	五〇三十五、	七〇二 十、		九〇五 十、			十一〇四十五、	十〇六十八、	七〇十 二、	三〇五十六、
神嵜発	五〇四十五、	七〇三十八、		十〇 七、			十二〇 一、	十〇八十三、	七〇二十二、	三〇六十一、
西ノ宮発	六〇 五、	七〇五十八、		十〇二十三、			十二〇十 八、	十〇九十五、	七〇三十 、	三〇六十五、
住吉発	六〇二十二、	八〇十 五、		十〇三十八、			△	十一〇十 三、	七〇四十二、	三〇七十一、
三ノ宮発	六〇三十七、	八〇三 十、		十〇五十三、			十二〇四十六、	十一〇二十八、	七〇五十二、	三〇七十六、
神戸着	六〇四十二、	八〇三十五、		十〇五十八、			十二〇五十八、	十一〇二十八、	七〇五十二、	三〇七十六、

大船横須賀間發着表

下り車	大船発	鎌倉発	逗子発	横須賀着
午前	七時三十五分	七時四十九分	八時 一分	八時二十、
午前	九〇四十五、	九〇五十九、	十〇十一、	十〇三十、
午後	一〇四十五、	一〇五十九、	二〇十一、	二〇三十、
午後	四〇 五、	四〇十 五、	四〇三十一、	四〇五 十、
午後	六〇十 五、	六〇二十九、	六〇四十一、	七〇 、
午後	八〇三十、	八〇四十四、	八〇五十六、	九〇十 五、

上り車	横須賀発	逗子発	鎌倉発	大船着
午前	六〇四十、	七〇 一、	七〇十 三、	七〇二十五、
午前	八〇五十、	九〇 九、	九〇二十、	九〇三十二、
午前	十一〇十 五、	十一〇三十六、	十一〇四十八、	十二〇
午後	二〇五十、	三〇 九、	三〇二十一、	三〇三十三、
午後	五〇 、	五〇二十一、	五〇三十三、	五〇四十五、
午後	七〇三十、	七〇五十一、	八〇 三、	八〇十 五、

大船ヨリ横須賀ニ至ル賃金表

自大船 賃金	上等	中等	下等
鎌倉迄	十五銭	十銭	五銭
逗子迄	二十一、	十四、	七、
横須賀迄	三十、	二十、	拾、

米原金ヶ嵜間發着表

下り列車

駅名	午前	午後	午後	賃中等	賃下等
米原発	八時二十分	三時二十五分	七時三十分	米原ヨリ	
長濱発	八〇四十一、	三〇四十六、	七〇五十一、	拾銭	五銭
高月発	九〇 二、	四〇 七、	八〇十 二、	二十七、	十三、
井ノ口発	九〇 七、	四〇十 三、	八〇十 八、	二十九、	十四、
木ノ本発	九〇十 四、	四〇二 十、	八〇二十五、	三十三、	十五、
中ノ郷発	九〇二十七、	四〇三十三、	八〇三十八、	四十一、	十九、
柳ヶ瀬発	九〇四十二、	四〇四十八、	八〇五十五、	四十八、	二十二、
疋田発	十〇 七、	五〇十 二、	九〇十 九、	六十四、	二十九、
敦賀発	十〇二十五、	五〇二十九、	九〇三十九、	七十六、	三十五、
金ヶ嵜着	十〇三 十、	五〇三十三、	九〇四 十、	七十六、	三十五、

上り列車

駅名	午前	午後	午後	中等	下等
金ヶ嵜発	五〇四 十、	十二〇十 五、	二〇五 十、	金ヶ嵜ヨリ	
敦賀発	五〇四十五、	十二〇二 十、	二〇五十五、	三銭	一銭
疋田発	六〇 、	十二〇三十六、	三〇 十、	十二、	五、
柳ヶ瀬発	六〇三十一、	一〇 十、	三〇四十三、	二十八、	十三、
中ノ郷発	六〇四十一、	一〇二 十、	三〇五十三、	三十六、	十六、
木ノ本発	六〇五十三、	一〇三十五、	四〇 三、	四十三、	十九、
井ノ口発	六〇五十八、	一〇四十一、	四〇十 二、	四十七、	二十一、
高月発	七〇 三、	一〇四十七、	四〇十 七、	四十九、	二十二、
長濱発	七〇二十四、	二〇十 五、	四〇四 十、	六十六、	三 十、
米原発	七〇三十九、	二〇三 十、	四〇五十五、	七十六、	三十五、

大府武豐間發着時間表

下り列車	午前	午後	上り列車	午前	午後
大府発	八時五十五分	三時 分	武豐発	五時四十分	十時四十分
亀崎発	九〇二十三、	三〇二十八、	半田発	五〇五十六、	四〇三十六、
半田発	九〇三十五、	三〇四十、	亀崎発	六〇 十、	十、
武豐着	九〇五十、	三〇五十五、	大府着	六〇三十五、	四〇五十五、

大府武豐間賃金表

大府	亀崎	半田	武豐	下等
亀崎	十二錢	十八、	十三、	六錢
半田	六錢	九、	六、	三錢
武豐	三錢	三錢	三錢	二錢

草津三雲間時刻賃金表

上り			下り		
草津発	石部着	石部発	草津発	石部着	石部発
前七時五十分	前七時五十五分	前七時五十五分	前七時五十分	前七時五十五分	前七時五十五分
十〇二十、	十〇元、	十〇四十、	十〇二十、	十〇元、	十〇四十、
後十二〇二十、	後十二〇四十、	後十二〇五十、	後十二〇二十、	後十二〇四十、	後十二〇五十、
二〇二十、	二〇九、	二〇四十、	二〇二十、	二〇九、	二〇四十、
四〇四十、	五〇四、	五〇六、	四〇四十、	五〇四、	五〇六、
六〇二十、	六〇四十、	六〇四十、	六〇二十、	六〇四十、	六〇四十、
三雲発	石部着	石部発	三雲発	石部着	石部発
前八〇十、	前八〇二十、	前八〇二十七、	前八〇十、	前八〇二十、	前八〇二十七、
十〇十、	十〇二十、	十〇二十七、	十〇十、	十〇二十、	十〇二十七、
後一〇二十、	後一〇四十、	後一〇四十七、	後一〇二十、	後一〇四十、	後一〇四十七、
二〇十、	二〇二十、	二〇二十七、	二〇十、	二〇二十、	二〇二十七、
五〇二十、	五〇四十、	五〇四十七、	五〇二十、	五〇四十、	五〇四十七、
七〇二十、	七〇四十、	七〇四十七、	七〇二十、	七〇四十、	七〇四十七、
驛名	等級	等級	驛名	等級	等級
石部	上等	下等	草津	上等	下等
三雲	十八錢	十二錢	三雲	十八錢	十二錢
草津	三十、	六錢	石部	三十、	六錢
三雲	十五、	十、	草津	十五、	十、
石部	十五、	十、	三雲	十五、	十、

勢州行流船發着時刻賃金及ビ船車聯絡表

流船	午前八時	午前十時半分	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午後四時	午後四時
神社發	○	午後二時	午前八時	午前八時	午前八時	午後四時	○	○
流船津發	○	午前八時	流四日市船則桑名発	流船熱田着	流船豐橋発	流船神社着		
流四日市船熱田発	四日市神社行	桑名行	四日市行	桑名行	流東豐橋発	自熱田至桑名	流東豐橋着	名古屋行
流船熱田発	午前九時十分	午前八時	午前十二時三十分	午前二時	午前十時	午前十時	午後二時	午後四時
流船津発	正午十二時	午後二時四十八分	午三時	後四時着	午後四時	午後四時		
流船神社着	午後五時	午後五時	午後四時		午後四時	午後四時		

流神社發	流船津發	流船熱田着	流船神社發	流船豐橋着	流船豐橋發	流船神社着	流東豐橋着	流車豐橋着	流車豐橋發	流車豐橋着
午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時
名古屋行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行	桑名行
午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時
静岡行	東京ヨリ	神戸ヨリ	東京ヨリ	静岡行	流車豐橋着	自豐橋至神社	中等	下等	中等	下等
午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時	午後四時
中等	下等	中等	下等	中等	下等	中等	下等	中等	下等	中等
金二十二錢	金十七、	金五十錢	金四十、	金二十二錢	金十七、	金五十錢	金四十、	金二十二錢	金十七、	金五十錢
從熱田至桑名	從豐橋至神社	至神社	至神社	從熱田上等	從豐橋至神社	至津	至四日市	至津	至四日市	至津
上等	中等	金七拾、	金五拾、	金三十五錢	金三十五錢	金五十五、	金三十五錢	金五十五、	金三十五錢	金五十五、
中等	下等	金五拾、	金四十、	金二十五錢	金二十錢	金四十、	金二十錢	金四十、	金二十錢	金四十、
下等	下等	金四十、	金三十、	金二十錢	金二十錢	金三十、	金二十錢	金三十、	金二十錢	金三十、

内國旅行 日本名所圖繪

一ノ巻 五畿内之部 正價金廿二錢
二ノ巻 東海道之部 仝 廿二錢
三ノ巻 仝 續之部 仝 廿五錢
一名東京及近傍名所獨案内
四ノ巻 東山道之部 仝 廿五錢
五ノ巻 陸前陸中陸奥北海道之部 仝 廿五錢
六ノ巻 山陰及山陽 近刻
七ノ巻 南海及西海 近刻

分邦詳密 日本地圖 日本國土分裂圖 西洋綴全一冊 正價金八十錢
附驛路里程燈臺表加

世界旅行 萬國名所畫繪 全七冊
地球共八冊正價壹圓壹拾錢
合本地圖共四冊正價壹圓八十錢

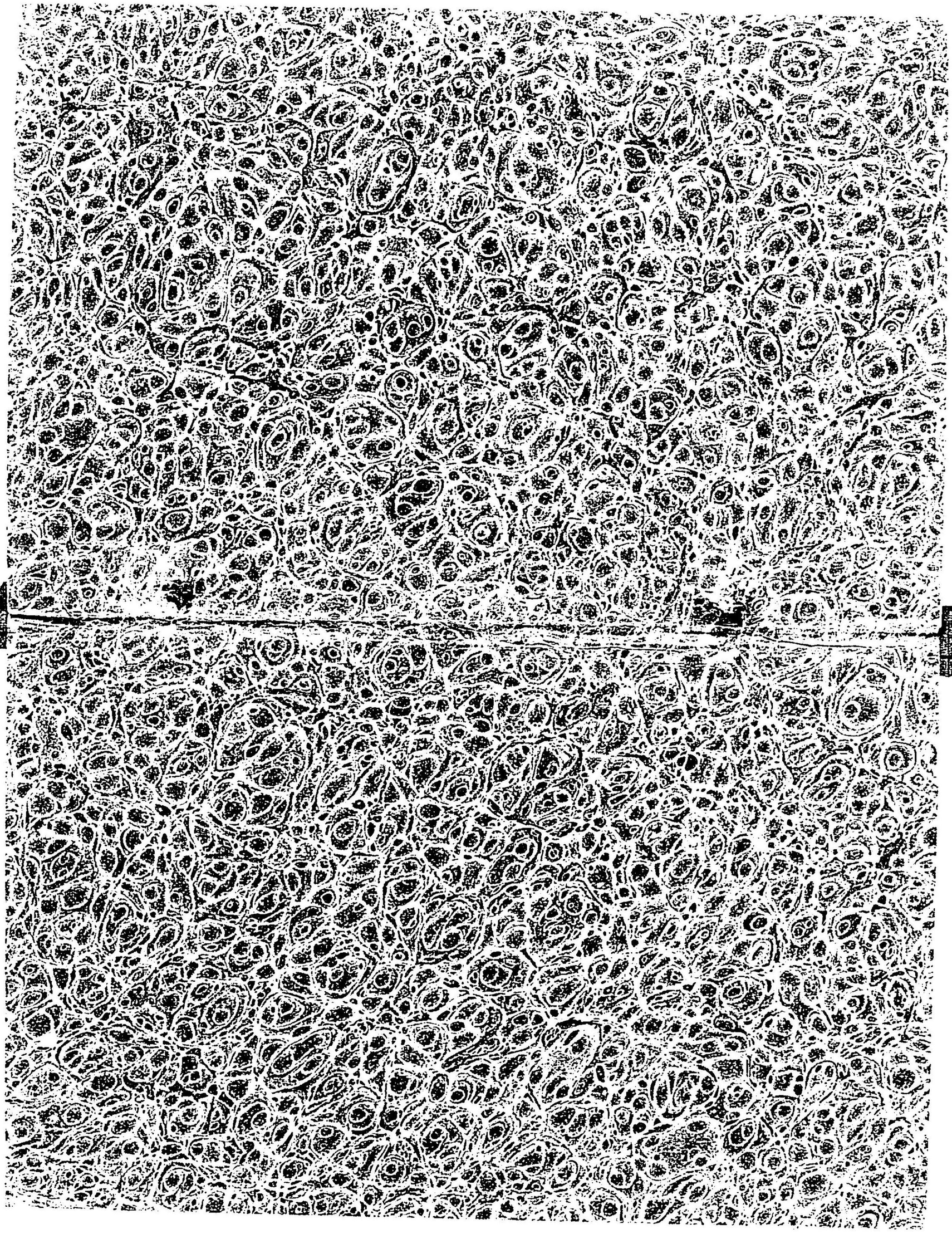
一ノ巻 南北亜米利加洲之部 正價廿四錢
二ノ巻 欧羅巴洲之上 仝 二十錢
三ノ巻 仝 中 仝 二十錢
四ノ巻 仝 下 仝 廿八錢
五ノ巻 亜非利加洲 亜西尼亜洲 部 仝 廿八錢
六ノ巻 亜細亜洲之上 仝 廿八錢
七ノ巻 亜細亜洲之下 仝 廿八錢
外二世界旅行萬國全地球附加仕候
右之書物モ日本名所ト併載ス同ク編著ス

明治廿三年二月五日印刷
同　二月八日出版
同　二月十九日發行

版權登録
版權所有

著者　大阪市西區西長堀三丁目三番屋敷　上田文齋
出版者兼印刷者　大阪市南區長者町橋通四丁目二百四十番屋敷　青木恒三郎
發賣所　大阪心斎橋筋壹丁目南入　宮山堂本店
仝　東京日本橋區通旧町壹番地　宮山堂支店
仝　芳花四市港區町　宮山堂分店

定價金二拾錢



０２５１８０－０００－９

特６２－５２１

伊勢参宮名所図絵　一名、東海道鉄道名所案内

上田　維暁（文斎）／編

M２３

ADC－２５７４